

平成17年度（第49回）
岩手県教育研究発表会資料

情 報 教 育

小学校社会科歴史学習において児童の考える力を
高める指導に関する研究
コンピュータ教材の開発・活用をとおして

平成18年1月12日
長期研修生
所属校 紫波町立片寄小学校
氏名 今 淵 哲 哉

目 次

研究目的	1
研究仮説	1
研究の内容と方法	1
1 研究の内容と方法	1
2 授業実践の対象	2
研究結果の分析と考察	2
1 小学校社会科歴史学習において児童の考える力を高める指導に関する基本構想	2
(1) 小学校社会科歴史学習において児童の考える力を高めることに関する基本的な考え方	2
(2) 小学校社会科歴史学習において児童の考える力を高める指導に、コンピュータ教材を 活用する意義	2
(3) コンピュータ教材の開発・活用をととして児童の考える力を高める指導の展開	3
(4) 小学校社会科歴史学習において児童の考える力を高める指導についての基本構想図	3
2 手だてにかかわる実態調査及び調査結果の分析と考察	3
(1) 実態調査の目的と内容	3
(2) 調査の結果の分析と考察	4
(3) 実態調査から明らかになった問題点と配慮事項	6
3 基本構想に基づく手だての試案	6
(1) 手だての試案について	6
(2) 検証計画	7
4 基本構想に基づき開発したコンピュータ教材	7
(1) コンピュータ教材の開発の目標	7
(2) コンピュータ教材開発の留意事項	7
(3) コンピュータ教材の構造	7
5 授業実践及び実践結果の分析と考察	10
(1) 小学校社会科歴史学習における考える力を高める授業実践の概要	10
(2) 実践結果の分析と考察	12
6 小学校社会科歴史学習において児童の考える力を高める指導に関するまとめ	14
(1) 成果	14
(2) 課題	15
研究のまとめと今後の課題	15
1 研究のまとめ	15
2 今後の課題	15

<おわりに>

【参考文献】

【引用Webページ】

【参考Webページ】

【補充資料】

研究目的

小学校社会科歴史学習においては、我が国の歴史に対する理解を深め、我が国の歴史に対する愛情を育成する観点から、資料を効果的に活用し、調べたことを表現するとともに、歴史的事象の意味をより広い視野から考えることが必要とされている。

しかし、歴史学習における本校の児童の実態を見ると、時代背景を押さえた上で、歴史的事象の起こった要因や人物の働き及び歴史的事象が社会全体に与えた影響について考えることができないでいる。それは、関連する複数の資料の用い方や着眼点の与え方などの支援が十分ではないことが要因であると思われる。

このような状況を改善するには、関連する資料を並べて表示し、また資料の着眼点を示すことのできるコンピュータ教材を用いて、児童に歴史上の人物と歴史的事象、人物相互、歴史的事象相互の関係をとらえさせることが必要であると考えられる。

そこで、この研究は、歴史上の人物と歴史的事象、人物相互、歴史的事象相互の関係をとらえるためのコンピュータ教材の開発を行い、それを活用した授業実践をとおして、児童の考える力を高める指導の在り方を明らかにし、小学校社会科歴史学習の指導の改善に役立てるようとするものである。

研究仮説

小学校社会科歴史学習において、次のようなコンピュータ教材を用いて、歴史上の人物と歴史的事象、人物相互、歴史的事象相互の関係をとらえさせる指導を行えば、児童の考える力が高まるであろう。

- ・ 関連する資料を並べて表示する
- ・ 資料の着眼点や思考のヒントを表示する
- ・ 資料内の語句の説明を表示する

研究の内容と方法

1 内容と方法

- (1) 小学校社会科歴史学習において児童の考える力を高める指導に関する基本構想の立案
(文献法)

小学校社会科歴史学習において児童の考える力を高める指導に関する基本的な考え方をまとめ、その指導についての基本構想を立案する。

- (2) 手だてにかかわる実態調査及び調査結果の分析と考察(質問紙法)

社会科歴史学習に対する児童の経験や学習指導の実態を調査し、分析・考察を行い、問題と要因を明らかにして、手だての試案の作成に役立てる。

- (3) 基本構想に基づく手だての試案の作成(文献法)

基本構想と実態調査に基づき、小学校社会科歴史学習において児童の考える力を高める指導についての手だての試案を作成する。

- (4) 基本構想に基づくコンピュータ教材の開発(開発法)

基本構想に基づき、小学校社会科歴史学習において児童の考える力を高めるコンピュータ教材を開発する。

- (5) 授業実践及び実践結果の分析と考察(授業実践、質問紙法、テスト法)

基本構想に基づき開発したコンピュータ教材を活用した授業を行い、その結果を分析することにより、手だての有効性を検証する。

- (6) 小学校社会科歴史学習において児童の考える力を高める指導に関する研究のまとめ
実践結果の分析と考察に基づき、小学校社会科歴史学習において児童の考える力を高める指導に関してまとめる。

2 授業実践の対象

紫波町立片寄小学校 第6学年(男子6名 女子5名 計11名)

研究結果の分析と考察

1 小学校社会科歴史学習において児童の考える力を高める指導に関する基本構想

- (1) 小学校社会科歴史学習において児童の考える力を高めることに関する基本的な考え方
小学校歴史学習においては、我が国の歴史に対する理解を深め、我が国の歴史に対する愛情を育成する観点から、資料を効果的に活用し、調べたことを表現するとともに、歴史的事象の意味をより広い視野から考える力を高めることが必要とされている。

考える力とは基礎的・基本的な知識・理解のもとに形成されるものとされている。考える力を高めていくためには、ものごとのつながりを見いださせる必要がある。そのため、歴史学習においては、はじめに資料から歴史的事象の事実をとらえさせ、次に、歴史的事象を他の事象や歴史上の人物との関連を見いださせていくことが必要であると思われる。そして、これら二つのことをとおして、歴史的事象の生じた要因や、社会に与えた影響について整理し、根拠をもって類推させることができると考える。

そこで、「事実をとらえる」「関連を見いだす」「要因や影響を類推する」ことをさせる指導により、小学校社会科歴史学習において考える力を高めることができるととらえる。

- (2) 小学校社会科歴史学習において児童の考える力を高める指導に、コンピュータ教材を活用する意義

小学校社会科歴史学習では、地図、年表、図、文章資料などの活用を図りながらの学習展開を行うことが多く、用いる資料については、歴史的事象の事実を正確にとらえさせることができ、かつ、児童にとって分かりやすい資料が必要である。

これまでの授業では、歴史的事象の生じた要因や社会に与えた影響を類推させるため、教師が教科書・資料集・図書資料・インターネット等から資料を選び、それら資料を活用させながら、歴史的事象の事実をとらえさせたり、複数の資料を見比べながら相違点や共通点などの歴史的事象の関連を見いださせたりする指導を行ってきた。しかし、児童にとって文章資料の語句が難しいものであったり、複数の資料を視点をもって見比べたりすることが難しい状況にあった。そのため、歴史的事象の事実に基づいて、要因や社会に与えた影響について根拠をもって類推させにくい面があった。

そこで、文章資料の語句の意味や資料の着眼点を表示し、資料を並べて表示するコンピュータ教材を活用した指導を行うことにより、児童に歴史的事象の事実をとらえさせ、関連を見いださせることができ、歴史的事象の生じた要因や影響について根拠をもって類推させることができると考える。

(3) コンピュータ教材の開発・活用をととして児童の考える力を高める指導の展開

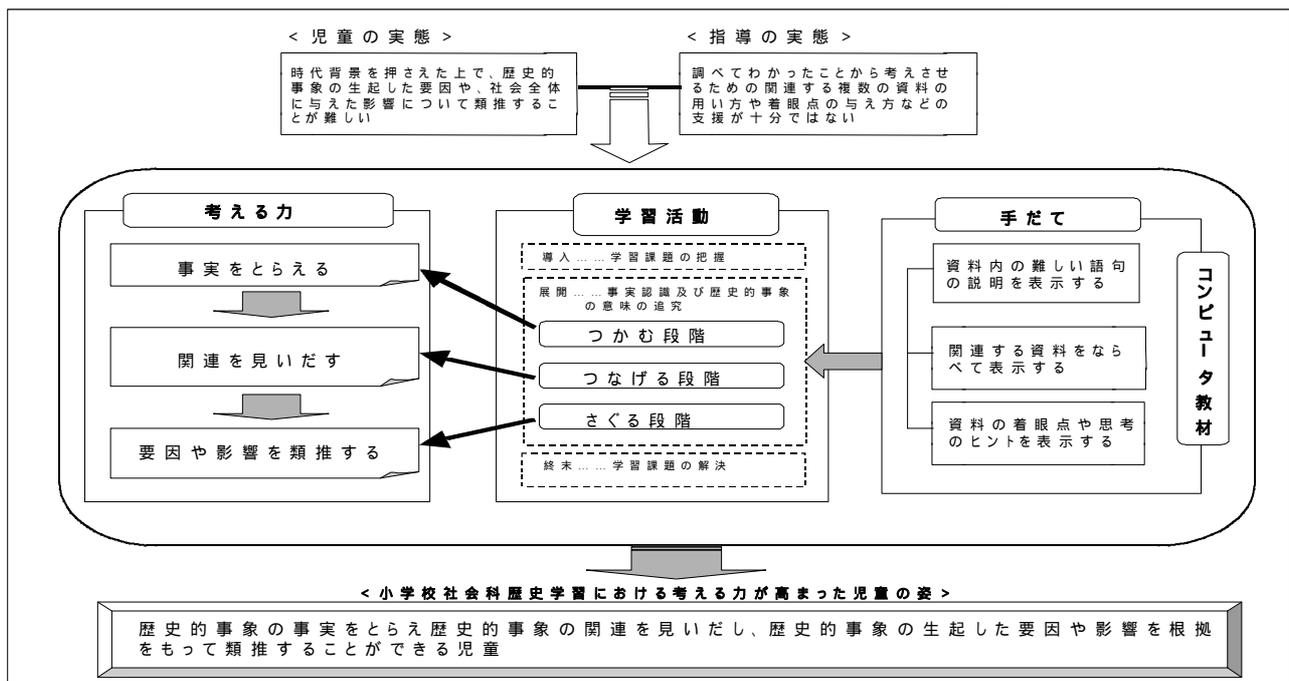
小学校社会科歴史学習において、児童の考える力を高める指導の構成段階として、「つかむ段階」、「つなげる段階」、「さぐる段階」を指導過程に位置付ける。「つかむ段階」とは児童が事実をとらえる段階のことであり、「つなげる段階」とは児童が歴史的事象や歴史上の人物との関連を見いだす段階のことであり、「さぐる段階」とは、児童が歴史的事象の生起した要因や社会に与えた影響を類推する段階のことである。

「つかむ段階」では、資料から重要な視点を押さえさせたり、使われている言葉を理解させたりして、歴史的事象の事実をとらえさせるための指導を行う。「つなげる段階」では、複数の資料を提示して、それらを比較させ相違点や共通点を見つけさせることにより、歴史的事象と他の事象、歴史上の人物との関連を見いださせる指導を行う。「さぐる段階」では、学習を振り返らせ、資料からとらえた事実や、相互の関連を見いだす活動をととして要因や影響について根拠をもって類推させる指導を行う。

これら三つの段階に合わせたコンピュータ教材を活用して、指導を行うことにより、児童の考える力を高めていきたいと考える。

(4) 小学校社会科歴史学習において児童の考える力を高める指導についての基本構想図

これまで述べてきたことを基に基本構想図を【図1】のように作成した。



【図1】小学校社会科歴史学習における児童の考える力を高める指導についての基本構想図

2 手だてにかかわる実態調査及び調査結果の分析と考察

(1) 実態調査の目的と内容

手だての試案を作成するにあたって、児童の社会科歴史学習における実態を把握するために、次のような目的と内容で調査紙を作成し、7月13日に実態調査を行った。

ア 実態調査の目的

この調査の目的は、調査対象となる小学校6年の社会科歴史学習における調べ方、考え方の実態を把握し、その問題点や課題について明らかにすることによって、歴史学習の授業において、児童の考える力を高める指導を行う際に必要な資料を得ることである。

イ 調査の内容

- (ア) 学習課題に対する調べる方法に関する内容
- (イ) 調べ活動における問題点に関する内容
- (ウ) 調べたことのまとめ方に関する内容
- (エ) 資料から事実をとらえることに関する内容
- (オ) 歴史的事象の関連を見いだすことに関する内容
- (カ) 歴史的事象の影響を類推することに関する内容

ウ 調査の対象

紫波町立片寄小学校 第6学年（男子6名 女子5名 計11名）

実態調査の具体的な観点と設問内容は次の【表1】のとおりである。

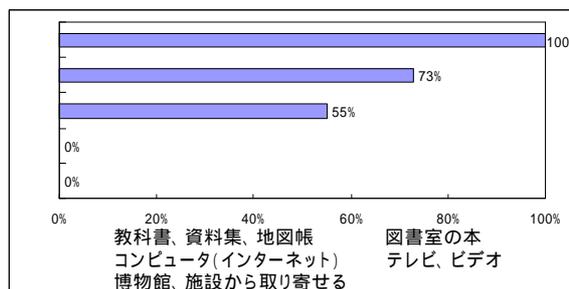
【表1】実態調査の具体的な観点と設問内容

設問番号	調査の観点	設問内容
1	学習課題に対する調べる方法	これまでの歴史学習で学習課題について調べるときにどんなものを使い調べたか
2	調べ活動における問題点	歴史学習で調べ活動をするときに、特に困ることはどんなことか
3	調べたことのまとめ方の状況	歴史学習で調べたことからまとめるときにどんなことに気を付けているか
4	事実をとらえる状況	織田信長軍の作戦と思われる箇所はどこか
5	歴史的事象の関連を見いだす状況	歴史的事象が3人の武将のうち誰に一番関係が深いか
6	要因や影響を類推する状況	織田信長がキリスト教を保護することによって世の中にどんな変化があったか

(2) 調査結果の分析と考察

ア 学習課題に対する調べる方法の状況

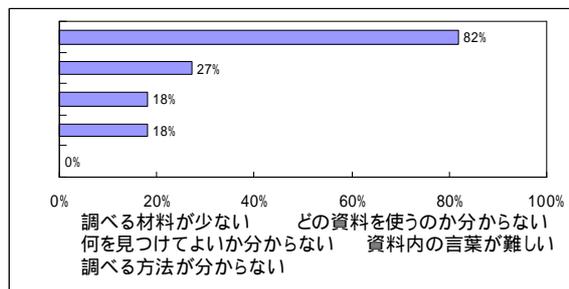
【図2】は歴史学習において、課題解決に向け調べ活動を行う際に、どのようなものを使用するかを調査した結果である。「教科書・資料集・地図帳」が、100%となっており、次に「図書室の本」73%、「コンピュータ（インターネット）」が55%となっている。このことから児童は、歴史学習で調べ活動を行う際には、身近にある資料を用いて課題解決を図っていることが分かる。



【図2】調べる方法

イ 調べ活動における問題点の状況

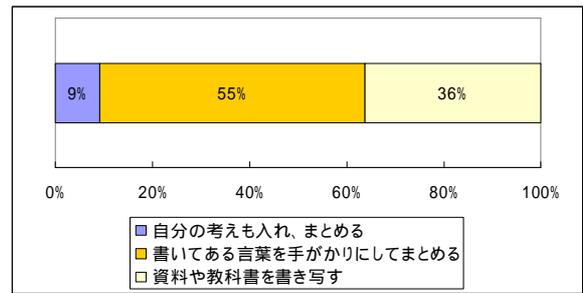
【図3】は児童が調べ活動をしている際に、児童自身が感ずる調べ活動の問題となる要因についての意識を調査した結果である。「調べる材料が少ない」が82%と最も多く、【図2】と照らし合わせて考えても、教科書、資料集、地図帳からだけでは、調べられる内容について限界を感じていることが分かる。また、「どの資料を使ってよいか分からない」が27%、「資料から何を見つけてよいか分からない」が18%と続いているが、このことから、調べ活動を行う際に、資料の使い方、資料の見方が調べ活動の問題点をなっていることが分かる。さらに「資料内の言葉が難しい」が18%と続き、資料内の語句の難しさが、調べ活動の問題点となっていることが分かる。



【図3】調べ活動の問題点

ウ 調べたことのまとめ方の状況

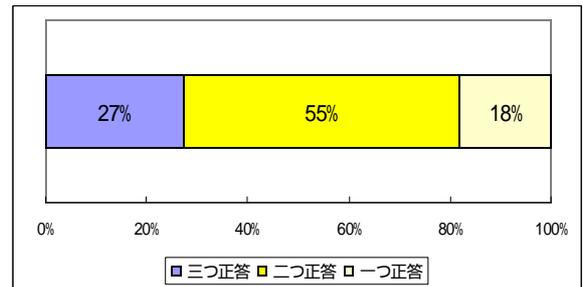
【図4】は、歴史学習において児童が調べ活動をとおして、まとめる際に、どのようなまとめ方をしているかを調査した結果である。「資料内に書いてある言葉を手がかりにしてまとめる」が55%と最も多く、ついで「資料や教科書を書き写す」が36%、「自分の考えも入れてまとめる」は9%である。このことから、資料や教科書などを手がかりにして、まとめようという児童がいる一方、調べたことをもとにまとめることができない児童が36%いるということが分かる。



【図4】調べたことのまとめ方の状況

エ 資料から事実をとらえる状況

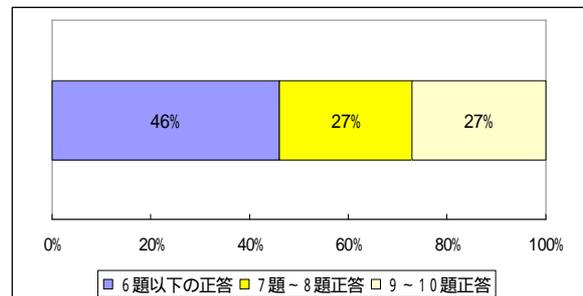
【図5】は、資料活用をとおして事実を正確にとらえる状況について調査した結果である。資料から四つの事実を認識させる問題であったが、三つの正答が27%、二つの正答が55%、一つの正答が18%という結果であった。このことから、児童は資料から事実をある程度把握できているものの、複数の事実を把握する際に、注視すべきポイントに気が付きにくい面があるということが分かる。



【図5】資料から事実をとらえる状況

オ 歴史的事象の関連を見いだす状況

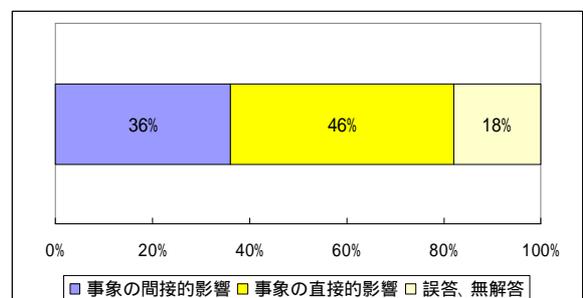
【図6】は、資料を活用する際に、歴史的事象や歴史上の人物との関連を見いだす状況について、調査した結果である。問題は全部で10題作成し、歴史的事象や歴史上の人物との関連を見いだしているか確認したところ、6題以下の正答率が46%と最も多く、7題から8題の正答率と9題から10題の正答率がそれぞれ27%となっている。このことから、調べ活動を行う際に、半数の児童は歴史的事象や歴史上の人物との関連をとらえていないことが分かる。



【図6】歴史的事象の関連を見いだす状況

カ 歴史的事象の要因や影響を類推する状況

【図7】は、資料から歴史的事象の影響を類推する状況について調査した結果である。織田信長とフランシスコ＝ザビエルの考え方から影響を類推させたものであるが、「キリスト教の保護」という言葉から、「キリスト教徒が増えた」「キリスト教が広まった」などという直接的な影響を考えた児童が46%と最も多く、「外国の文化が伝わった」「外国との交流ができた」などという間接的な影響を考えた児童は36%、誤答や無解答は18%であった。このことより資料の言葉を手がかりにして類推しようとしている児童が多いが、自分の考えも入れながら類推するまでは至っていないことが分かる。



【図7】歴史的事象の要因や影響を類推する状況

(3) 実態調査から明らかになった問題点と配慮事項

実態調査の結果の分析から明らかになった点を整理し、要因をとらえ配慮事項を明らかにする。

ア 問題点

歴史的事象や歴史上の人物との関連を見いだすことが難しく、歴史的事象の生起した要因や社会に与えた影響を根拠をもって類推するまで至っていない傾向がある。

イ 要因

歴史学習を行う際に、適切な資料を見つけにくく、また資料から歴史的事象の事実をとらえにくい状況にあるためと思われる。

ウ 配慮事項

歴史学習を行う際に、歴史的事象の事実を正確にとらえさせ、関連する資料の表示を意図的に行い、事実にして歴史的事象の生起した要因や社会に与えた影響について根拠をもって類推させるために思考の手がかりを与えていくことが必要であると思われる。

3 基本構想に基づく手だての試案

(1) 手だての試案について

基本構想に基づく手だての試案を【表2】に示す。

【表2】手だての試案

学 習 活 動		指導上の留意点及びコンピュータ教材の活用 (は指導上の留意点、 はコンピュータ教材の活用を示す)
導 入	1 中心となる歴史的事象の事実を知る 既習の内容を確認するとともに、単位時間の学習における中心となる事象を把握する	既習の内容を想起させるとともに、学習の中心となる歴史的事象の事実をつかませる これまでの時代の流れを、提示用教材を用いて確認させ、歴史的事象の生起した要因について関心をもたせる
	2 学習課題を知る 歴史的事象の生起した要因や社会に与えた影響を類推するための課題を把握する	
展 開	3 課題を追求する 課題解決に向け、資料を調べる ワークシートに資料からとらえたこと、類推したことを記入しながら学習を進める ・事実をとらえる ・歴史的事象の関連を見いだす ・歴史的事象の要因・影響について類推する	調べる内容、方法などを指示する 教材の操作方法を確認する コンピュータを使って調べ活動を行わせる 資料の見方、関連の見いだし方、類推の仕方を机間指導により行う つかむ段階 資料から歴史的事象の事実をとらえさせるために、視点を与える 資料内の語句で意味が難しいと思われるものについては、マウスカーソルを合わせさせ、意味を確認させる 「ヒントボタン」をクリックし、資料の着眼点を表示する つなげる段階 複数の資料の関連を見いださせるために、資料の見方について示す 歴史的事象や歴史上の人物の関連を見いださせるために、複数の資料を提示する さぐる段階 とらえた事実や、見いだした関連をとらえて、事実にして根拠をもって類推させるようにする。 「ヒントボタン」をクリックし思考のヒントを表示する 発展的に調べたい児童に対して、関連するWebページを閲覧させる ワークシートをもとに資料からとらえられたこと、類推したことを発表させ、他の児童の考えと照らし合わせて学び合わせる 学習内容について補足説明をする
	4 調べたことをもとに発表し、学び合う	
終 末	5 学習課題を解決する 学習課題について自分の考えを書き、発表する	自分で類推したことや、学び合いによって得たことから、歴史的事象の意味について整理してまとめさせる 教材を提示して学習内容を確認しながら定着を図る
	6 感想を記入する	

(2) 検証計画

授業実践をとおして、手だての試案の妥当性を見るために次のような検証計画を作成し、検証を進めることとする。小学校社会科歴史学習における考える力を高める指導にかかわって、「事実をとらえる」「関係を見いだす」「要因や影響を類推する」についてテスト法による調査問題を作成し、事前と事後に実施して個別の伸びを比較する。その検証計画の概要は【表3】に示す。また、コンピュータ教材の有効性についてはワークシートへの記述内容を基準に合わせて分析・考察するとともに、質問紙による調査を分析・考察しまとめる。なお、【表4】にワークシートへの記述内容を判断する基準を示す。

【表3】 検証計画の概要

検証項目	検証内容	検証方法	処理、解釈の方法
1 小学校社会科歴史学習における考える力の高まりの状況	事実をとらえる 関係を見いだす 要因や影響を類推する	・テスト法	・テスト法を用いて結果を個別の伸びから分析・考察する
2 教材の有効性	・小学校社会科歴史学習において考える力を高める指導としてのコンピュータ教材の有効性	・ワークシートへの記入 ・質問紙	・ワークシートへの記述内容を分析・考察する ・質問紙を用いて、コンピュータ教材の有効性に対する児童の意識を分析・考察する

【表4】 ワークシートへの記述内容を判断するための基準

指導段階	判断項目	判断するための基準(A十分に達成 B概ね達成)
つかむ段階	資料から歴史的事象の事実をとらえているか	A 資料から学習に必要な歴史的事象の事実を複数とらえている
		B 資料から学習に必要な歴史的事象の事実をとらえている
つなげる段階	資料から歴史的事象や人物の関連を見いだしているか	A 複数の資料から歴史的事象や人物の関連を見だし、整理して表すことができる
		B 複数の資料から歴史的事象や人物の関連を見いだすことができる
さぐる段階	歴史的事象の事実にして歴史的事象の生じた要因や影響について類推しているか	A 複数の歴史的事象の事実をとらえ、歴史的事象の生じた要因や影響について資料の言葉を手がかりに自分の考えも入れ、整理し類推することができる
		B 複数の歴史的事象の事実をとらえ、歴史的事象の生じた要因や影響について資料の言葉を手がかりに整理し類推することができる
* 各段階とも判断する基準Bまで至っていない児童はCとする		

4 基本構想に基づき開発したコンピュータ教材

(1) コンピュータ教材開発の目標

ア 一人一人が基本的な歴史的事象の事実や歴史上の人物とのかかわり、他の歴史的事象との結び付きなどについての知識・理解を得られるような構成にする。

イ 調べ活動を行う中で、歴史的事象の生じた要因や影響を類推させる内容とする。

(2) コンピュータ教材開発の留意事項

ア コンピュータの操作技術の差が学習に影響しないように、クリック操作だけで学習をするために、HTML形式で教材を作成する。

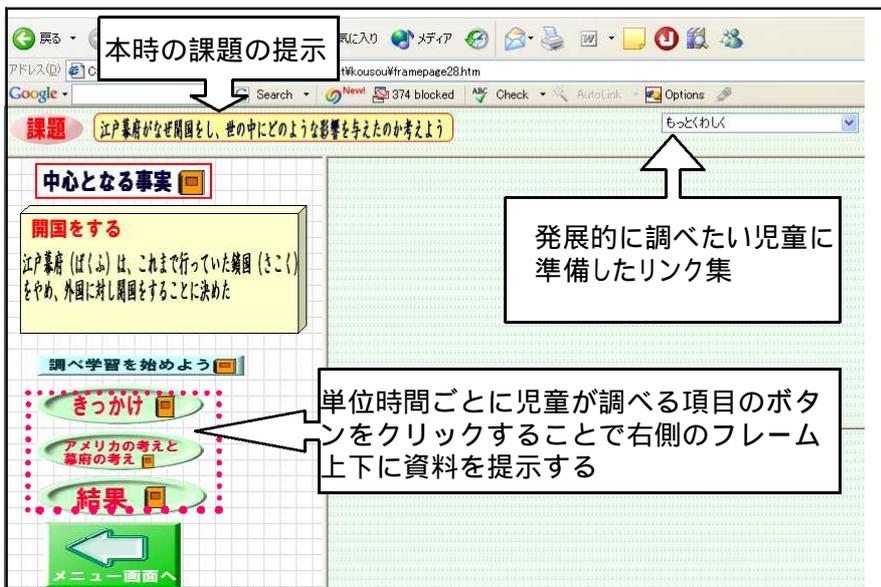
イ 児童が資料を関連づけて考えられるように提示する資料は、重要度の高い資料から順に提示し、それに伴う比較する資料や内容を補足する資料の提示する位置に留意する。

ウ 資料内で、内容が難しい語句には、マウスカーソルを合わせるだけで、意味を表示できるようにする。

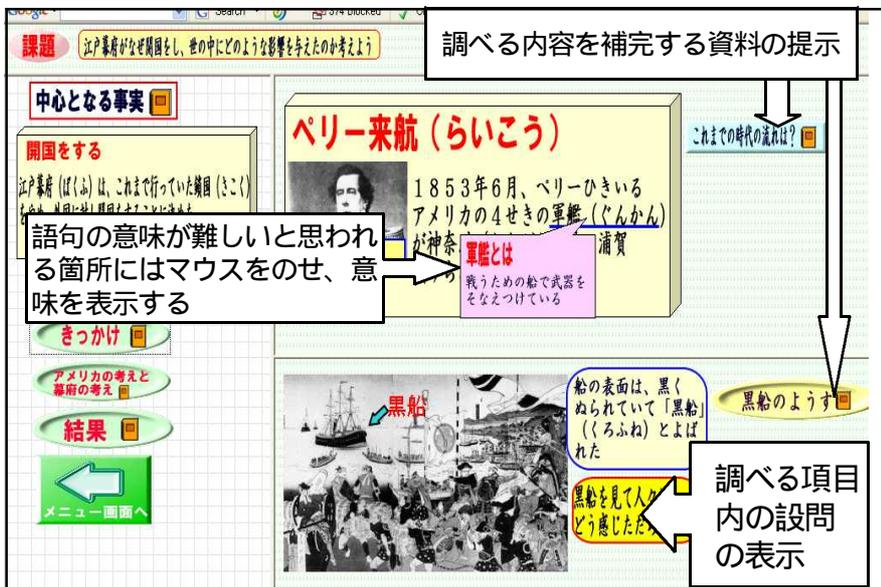
エ 教材に使用する資料についての著作権については、十分配慮する。

(3) コンピュータ教材の構造

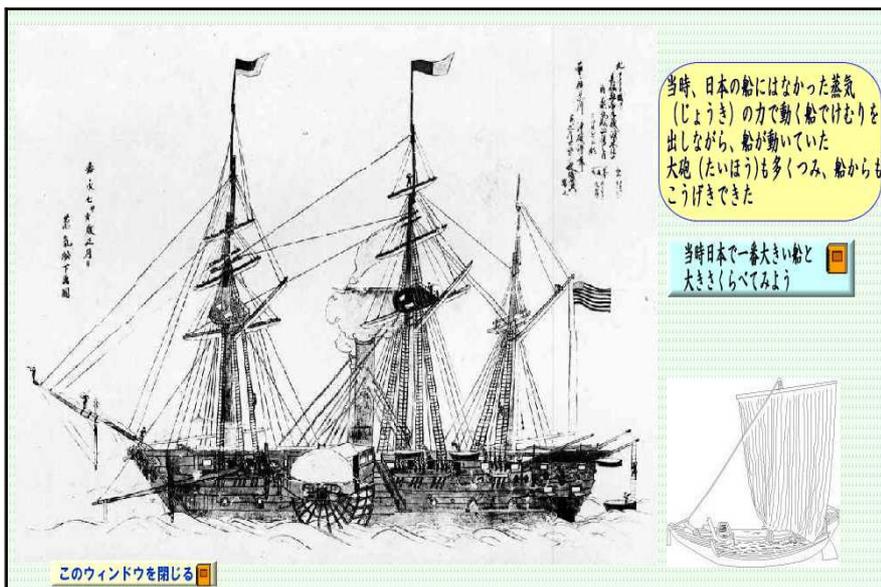
コンピュータ教材の構造を次頁【図8】～【図13】に示す。



【図8】単位時間の教材の構成



【図9】教材画面の例



【図10】補足する資料の提示

【図8】は基本的な単位時間の教材の構成である。一つのウィンドウ内を、「課題」「リンク集」「中心となる事実」「調べる内容」「資料提示」と四つのフレームに分割して設定した。

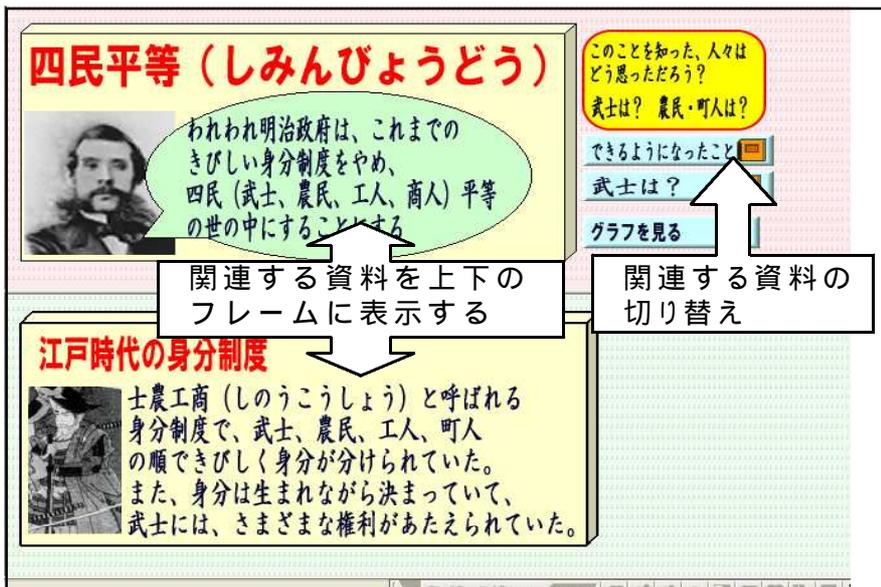
資料提示は、関連する資料を上下のフレームで同時に並べて見られるように設定した。

授業展開では、導入で既習内容の確認し、時代背景をとらえさせた上で、教材を使用するようにする。

【図9】は、1時間目の教材画面の例である。右側のフレームに提示した資料の一部には設問を用意した。その設問に対する考えをワークシートに記述させ、発表させ、学び合わせることによって、課題解決の一助とした。また、文章資料内で語句の意味が難しい箇所については、資料の内容をつかませるために、マウスカーソルをあてるだけで意味を表示できるようにした。

さらに調べる内容を補足する資料がある場合には、同一ページ内で資料を切り替えたり、場合によっては新しいウィンドウを表示して、拡大表示をする設定を行った。

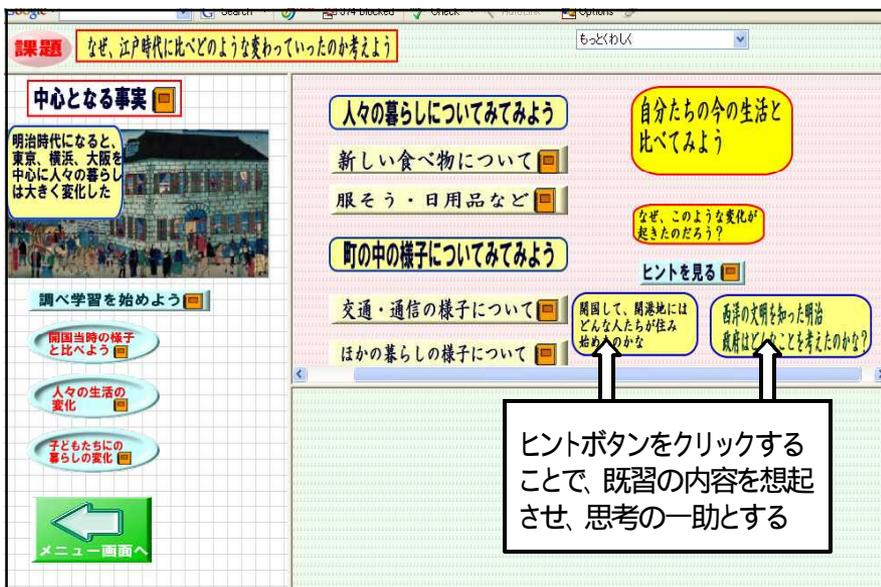
【図10】は補足する資料を示したものである。これは、新しいウィンドウで拡大して表示したものである。このように図を拡大表示することによって、細部にわたって見ることができ、事実を正確にと



【図11】関連を見いだす資料の提示の仕方



【図12】事実をとらえさせる着眼点の表示



【図13】既習の内容を結び付けて考えるためのヒントの表示

らえたり、歴史的事象の関連を見いだしたりやすくなると考える。

【図11】は、関連を見いだす資料の提示の仕方を示したものである。このように、資料を上下のフレームに同時に並べて表示することによって、歴史的事象や歴史上の人物を関連を見いだしやすくなるように設定した。また、資料横にあるボタンをクリックすることによって関連する資料を切り替えて表示できるように設定した。そのことによって、歴史的事象の関連を複数見いだせるようになると思った。

【図12】及び【図13】は、事実をとらえさせるための資料の着眼点の表示したり、思考のヒントを表示したりするものである。

【図12】は、「ヒントを見る」ボタンをクリックすることで、着目させたい箇所にポイントを示したものである。このことによって、どの児童も資料から必要な事実を確実にとらえることができると考える。

また、【図13】は、「ヒントを見る」ボタンをクリックすることで、既習の内容を文で表示し、既習の内容と結び付けながら、歴史的事象が生じた要因や影響を根拠をもって類推させようとしたものである。

5 授業実践及び実践結果の分析と考察

(1) 小学校社会科歴史学習における考える力を高める授業実践の概要

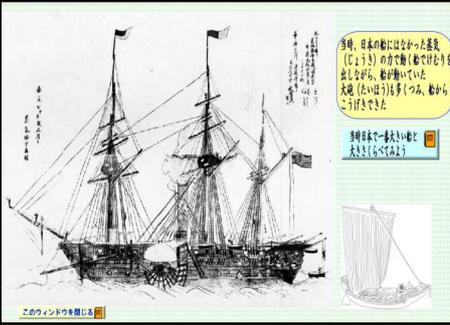
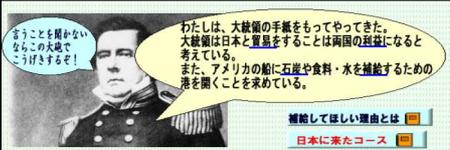
ア 対象 紫波町立片寄小学校 第6学年 1学級(男子6名 女子5名 計11名)

イ 授業実践の内容

(ア) 授業実践の期間 平成17年9月6日から9月26日

(イ) 単元名「新しい時代の幕開け」

(ウ) 単位時間の学習の流れ(ここでは、第1時を例にとる)

学習内容	学習活動 () は段階 [] は手だてを示す)								
<p>導 1 中心となる歴史的事象の事実を知る</p>  <p>今までの時代の流れを確認しよう</p>	<p>・時代の流れを既習内容を押さえながら確認するとともに、本時で学習する中心歴史的な事象について知る</p>  <p>・ワークシートに課題を記入する</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">江戸幕府がなぜ開国し、世の中にどのような影響を与えたのか考えよう</p>								
<p>入 2 課題の設定</p> <p>3 課題を追究する</p> <p>発問</p> <p>黒船を見て当時の人々はどうの思っていたのだろうか</p>  <p>発問</p> <p>江戸幕府は、どんなことに困り、どのように判断して開国したのだろうか</p> 	<p>・開国のきっかけとなった事実を知る つかむ段階</p> <p>・黒船来航による人々の思いについて考える つなげる段階</p>  <p>黒船と当時の日本最大の船とを並べて提示し、黒船の大きさ、装備を比較をさせることによって当時の人々の黒船に対する思いについて記入させた。</p> <p>< 児童の記述例 ></p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">日本で一番大きい船に比べても、たいへん大きく、しかも大砲をたくさんつんでいて、こげきされるかと思いきわかったと思う。</p> <p>・ペリー来航の目的について知る つなげる段階</p> <p>・幕府(老中阿部政弘)の苦悩と決断について考える</p>  <p>ペリー艦隊と日本の戦力の違いの資料を提示し、キリスト教を広めないために鎖国政策を続けたい幕府の苦悩と決断について記入させた。</p> <table border="1" data-bbox="628 1890 1023 2029"> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">ペリーの軍艦と日本の戦力のちがい</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">ペリーの軍艦</td> <td style="text-align: center;">日本</td> </tr> <tr> <td>大砲の数 63門</td> <td>19門</td> </tr> <tr> <td>速さ(時速) 約4kmくらい</td> <td>約2kmくらい</td> </tr> </table>	ペリーの軍艦と日本の戦力のちがい		ペリーの軍艦	日本	大砲の数 63門	19門	速さ(時速) 約4kmくらい	約2kmくらい
ペリーの軍艦と日本の戦力のちがい									
ペリーの軍艦	日本								
大砲の数 63門	19門								
速さ(時速) 約4kmくらい	約2kmくらい								

展

発問

開国して世の中にはどのような影響があったのだろうか



開

< 児童の記述例 >

まよった理由は、鎖国を続けるとペリーに攻撃されてしまい、開国するとキリスト教が広まってしまうかもしれないから。開国を決断したのは、戦力があまりにもちがいが、戦っても間違いなく負けると思ったから。

キリスト教を広めたくないため、ペリーに1年待ってもらい大名たちとも話し合ったが、次の年には軍艦が7隻に増え、こわくなり開国した。

・開国による世の中への影響について考える

さぐる段階



世の中の変化の様子を、ペリーが条約締結に際して幕府に渡した献上品の資料を提示することによって、ペリーの来航という歴史的事象が社会に与えた影響について類推させた。

< 児童の記述例 >

今までは見たこともない品物や、食べ物などが日本にたくさん入ってきて、人々の仕事が増えたりして豊かな暮らしになったと思う。

蒸気機関車の模型や時計など日本にないものばかりペリーはみやげとして持ってきたので、たぶんこのようなものを、日本で生産するようになったり、今までなかった文化が生まれたりして少し豊かになったと思う。

4 調べたことをもとに発表し、学び合う

・考えを発表し、学び合う
・教師の補足説明を聞く

ここでは、児童が資料からとらえたこと、類推したことを発表することで、他の児童の考え方を参考に自分の考えを見つめ直させる。児童が個別学習では内容が難しいと思われる条約の問題点について、補足説明をし、学習課題解決に向け、理解を深めさせた。

終

5 学習課題を解決する



・学習課題の解決を図る

ここでは、全体で学び合ったことや、補足説明で新たに得たことから、根拠をもって記述するよう指導し、学習課題の解決を図らせた。さらに教材を活用し、学習内容を確認させた。

< 児童の記述例 >

江戸幕府は、戦力がペリーの方がはるかに上だと思い、戦ったとしても勝ち目はないと思い開国し、日本にないものが増えていき暮らしも少し豊かになった。

江戸幕府は、あまりの戦力のちがいにおそれ開国し、世の中には条約が作られてそれが不平等だったため、日本に悪い影響を与えた。

末

6 感想を記入する

・分からない言葉の説明があって分かりやすかった
・大事ところをしっかりとらえて学習することができた
・自分で調べながら進めていくのでしっかり覚えることができた

(2) 実践結果の分析と考察

基本構想に基づく実践の妥当性を検証計画に従って以下のように分析、考察した。

ア 主題テストにみる小学校社会科歴史学習における考える力の育成状況

小学校社会科歴史学習における考える力の構成段階である「つかむ」段階「つなげる」段階「さぐる」段階の3段階で、「事実をとらえる」「関連を見いだす」「要因や影響を類推する」に関する主題テストを行い、事前、事後調査における児童一人一人の変容を測った。なお、「つかむ」段階では、資料から事実をとらえる問題を6点満点、「つなげる」段階では、二つの資料から関連を見いだす問題を4点満点、「さぐる」段階では、歴史的事象の要因や影響を類推する問題を4点満点とした。

(ア) 「事実をとらえる」状況

【表5】は構成段階の「つかむ段階」での「事実をとらえる」状況の個別の伸びを示したものである。この表より、事前調査の結果からある程度達成できると判断できるが、事後調査の結果において9名がプラス傾向に変容していることから、さらに、歴史的事象の事実をとらえることが身に付いたものと思われる。

(イ) 「関連を見いだす」状況

【表6】は構成段階の「つなげる段階」での「関連を見いだす」状況の個別の伸びを示したものである。この表より、事前調査の結果からすでに達成している児童も見られるが、他の児童はすべてプラス傾向に変容していることから、歴史的事象や歴史上の人物との関連を見いだすことが身に付いたものと思われる。

(ウ) 「要因や影響を類推する」状況

【表7】は構成要素の「さぐる段階」での「歴史的事象の生起した要因や影響を類推する」状況の個別の伸びを示したものである。この表を見ると学級11名中10名の児童がプラス傾向に変容しており、授業実践をとおして、根拠をもって歴史的事象の生起した要因や影響について類推することが身に付いてきたことが認められる。点数による変容の見られなかったj児については、記述内容が根拠に乏しいものが見られたためであり、それは複数の歴史的事象の事実にあたって考えさせる指導が弱かったためと思われる。しかしながら、授業場面では自分の考えを入れながら説明しようとしている姿勢は見られるようになってきた。

【表5】事実をとらえる個別の伸び

	6点	a児	b児	c児	d児	e児	f児	g児	h児	i児	j児	k児
A	6点		↑	↑	↑		↑		↑			
B	5	↑								↑	↑	↑
C	4											
	3											
	2											
	1											
	0											

- (注) 1 事前調査は9月2日、事後調査は9月27日に行った
 2 上向き矢印は、児童一人一人の伸びを表すものである
 3 印については、事前、事後と変容の見られなかった児童を示している。
 4 点数は資料から必要な事項をとらえている数で判断している
 5 A, B, Cは児童の達成状況であり、Aは十分に達成、Bは概ね達成、Cは達成不十分とした

【表6】関係を見いだす個別の伸び

	4点	a児	b児	c児	d児	e児	f児	g児	h児	i児	j児	k児
A	4点	↑				↑			↑			
B	3							↑	↑			↑
C	2									↑	↑	
	1											
	0											

- (注) 1 調査期日、表の見方は【表5】に同じ
 2 点数は、二つの資料から関連を見いだすための事実をとらえている数で判断している

【表7】要因や影響を類推する個別の伸び

	4点	a児	b児	c児	d児	e児	f児	g児	h児	i児	j児	k児
A	4点	↑	↑		↑	↑	↑					
B	3		↑	↑				↑	↑	↑		
C	2											↑
	1											
	0											

- (注) 1 調査期日、表の見方は【表5】に同じ
 2 点数は、類推する際に根拠となる事実をいくつ使って説明しているかを数で判断している

以上、全体的な傾向として、「事実をとらえる」「関連を見いだす」「要因や影響を類推する」状況がすべてプラス傾向に変容していることから、小学校社会科歴史学習において考える力の高まりが認められたと考える。

イ ワークシートへの記入における小学校社会科歴史学習において考える力を高める教材としてのコンピュータ教材の有効性

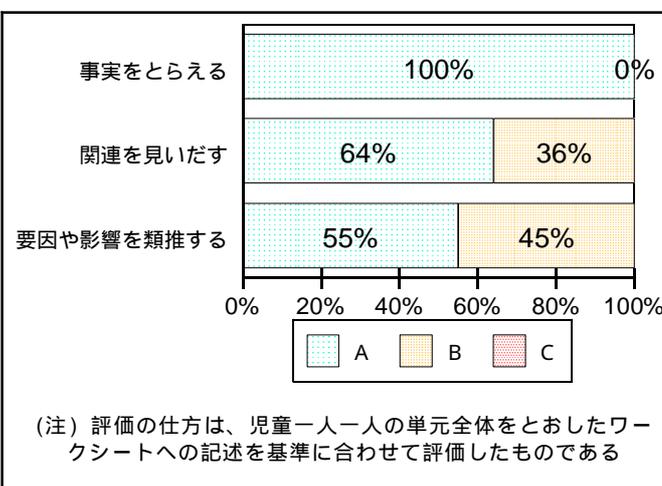
【資料1】は「さぐる段階」における歴史的事象の生じた要因を類推した記述例であり、第6時の「国会を開くことになった原因」の記述である。ワークシートへの記述例1と記述例2は、歴史的事象の事実に対して複数の資料の関連を図りながら資料の言葉を手がかりにして整理して類推して記述した例であり、7頁【表4】に示す基準に照らし合わせて見るとBとなる。また、記述例3と記述例4は、歴史的事象の事実に対して複数の資料の関連を図るとともに、下線にあるような自分の考えを入れながら根拠をもって類推した記述した例であり、【表4】に示す基準に照らし合わせて見るとAとなる。これらのように児童は、事実に対して根拠をもち、自分の考えも入れながら類推できるようになった。

【図14】は「つかむ」「つなげる」「さぐる」段階において「事実をとらえる」「関連を見いだす」「要因や影響を類推する」状況をワークシートへ記述させ、【表4】に示す基準に照らし合わせて評価したものである。

これによって判断すると、「つかむ段階」では、事実をとらえることが十分に達成されており、教材をとおして歴史的事象の事実をとらえさせる指導が有効であったと考えられる。「つなげる段階」では、関連を見いだすことが、Aが64%、Bが36%となっており、教材をとおして複数の資料から、人物と事象、人物相互、事象相互の関連を見いだすことが概ねできたと思われる。ただし、児童によっては、ワークシートへの記述が難しい箇所も見られ、単位時間の教材の構成における資料の並べ方、表示の仕方、表示の順序に改善の必要性があると思われる。「さぐる段階」では歴史的事象の要因や影響を類推することがAが55%、Bが45%となっており、教材をとおして、歴史的事象・事実をもとにし、関連を見いだしながら歴史的事象の生じた要因や社会に与えた影響を考えさせることに有効であったと思われる。しかしながら、社会に対する影響では、歴史的事象・事実に対して考えられず、根拠のない答えも見受けられた。これは、提示した資料から適切な判断ができなかったためと思われるので、資料の吟味、提示の仕方を改善しなければならないと考える。また、自分の考えを入れながら、歴史的事象の生じた要因や社会に与えた影響を類推させるためには、思考の手がかりとしての文や着眼点の表示のみならず、他の図や写真などを示し根拠をもたせるようにしていくことも必要であると思われる。

【資料1】ワークシートへの記述例

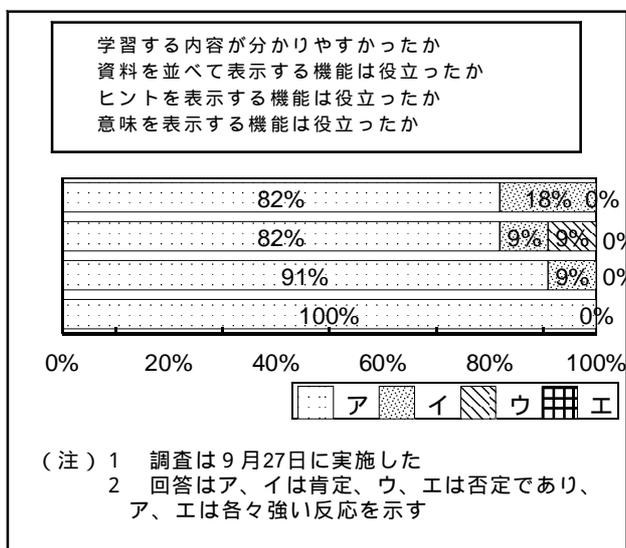
記述例1	いくら、政府がとりしまっても、国会を開いてほしいという国民がたくさんいたからだと思う
記述例2	各地で国会を開いてほしいという運動がたくさんあり、政府を批判して起きた事件もたくさんあったからだと思う
記述例3	いろいろな政府に対する反対があいついで起こっているから、板垣退助の考えのように国会を開いて、その反対をしずめようとしたからだと思う
記述例4	いっこうに士族や農民の反乱がなくなり、このままでは、政府がぐずれてしまうかもしれないから、国会を開く約束をしたと思う



【図14】ワークシートへの記述の評価

ウ 質問紙への記入に見る小学校歴史学習において考える力を高める教材としてのコンピュータ教材への意識

【図15】は、児童の質問紙への記入に見る小学校社会科歴史学習において考える力を高めるコンピュータ教材を使ってみての意識を調査したものである。調査項目は、「歴史学習の内容を分かりやすくするのにコンピュータ教材が役立ったか」、「資料を見て考えるときに並べて表示する機能は役立ったか」、「資料を見て考えるときに考えのヒントを示すコンピュータの機能は役立ったか」、「文章資料内の語句の意味を表示するコンピュータの機能は役立ったか」の四点である。各項目においてグラフに示すように、ほとんどの児童から「強い肯定」「肯定」の回答が得られた。その理由として【資料2】に示すような感想が多く、このことから、歴史学習において考える力を高める教材としてのコンピュータ教材は有効であったと考えられる。このことは、実際に単元の指導の事前・事後テストから判断しても同様のことが考えられる。単元の事前・事後テストの結果を【表8】に示す。しかしながらコンピュータ教材が部分的に分かりにくいと感じている児童もあり、その児童にとっては、教材の構成が、類推することと合わなかったことに要因があると思われ、今後見直していく必要がある。



【図15】コンピュータ教材への意識

【表8】事前・事後テストの結果 n = 11

機能内容	事前テスト		事後テスト		相関係数	t値	有意差
	平均点	標準偏差	平均点	標準偏差			
考える力	1.4	1.21	1.69	0.431	0.67	13.51	*

(注) 1 事前テストは、9月2日、事後テストは9月27日に実施した
2 *印は、t検定において、有意水準5%で有意差があることを示している
3 設問は20問で、「考える力」の構成段階である「つかむ」段階「つなげる」段階「さぐる」段階の項目を問題に取り入れ20点満点として測定した
4 t検定に用いた公式は以下のとおりである

$$t = \frac{\bar{X}_2 - \bar{X}_1}{\sqrt{\frac{S_1^2 + S_2^2 - 2rS_1S_2}{n-1}}}$$

\bar{X}_1 、 \bar{X}_2 は事前、事後の平均点
 S_1 、 S_2 は標準偏差
 r は相関係数 n は人数

【資料2】 コンピュータ教材に対する児童の感想

- ・ 学習するのに様々な資料があって分かりやすかった
- ・ 大切なポイントがはっきりしていて分かりやすかった
- ・ 事象と事象をすぐに比べることができた
- ・ 何について考えるのかが分かりやすかった
- ・ 資料の見方が分からないときにヒントを参考にすることができた
- ・ 考える際にどの部分をもとにして考えたらいかが知ることができた
- ・ 語句の意味を辞典で調べる必要がなくなり、その分、考えることに時間が使うことができた
- ・ 部分的に少しわかりにくいところがあった

6 小学校社会科歴史学習において考える力を高めるための指導に関するまとめ

小学校社会科歴史学習において児童の考える力を高める指導に関して成果と課題をまとめる。

(1) 成果

ア 資料にある難しい語句の意味を示したり、着眼点を示したりするコンピュータ教材を活用した指導を行うことによって、資料から歴史的事象の事実をとらえさせることができた。

イ 同時に複数の資料を画面上に並べることができるコンピュータ教材を活用した指導を行うことによって、歴史的事象や歴史上の人物との関連を見いださせることができた。

ウ 必要に応じて資料の着眼点や思考のヒントを示すコンピュータ教材を活用した指導を行うことによって、歴史的事象の事実に即しながら、根拠をもって類推させることができた。

(2) 課題

ア 思考のヒントを与える際に、文章だけではなく、できる限り図や写真を提示してそれを手がかりにして類推させていく指導が必要である。

イ 資料を吟味した上で資料の並べ方、表示の仕方、表示の順序など、単位時間の教材の構成を改善する必要がある。

研究のまとめと今後の課題

1 研究のまとめ

この研究は、歴史上の人物と歴史的事象、人物相互、歴史的事象相互の関係をとらえるためのコンピュータ教材の開発を行い、それを活用した授業実践をとおして、児童の考える力を高める指導の在り方を明らかにし、小学校社会科歴史学習の指導の改善に役立てるようになるものである。

そのため、小学校社会科歴史学習において児童の考える力を高める指導に関する基本構想を立案し、歴史的事象の事実をとらえさせたり、歴史的事象の関連を見いださせたり、歴史的事象の生じた要因や影響について類推させたりすることができるコンピュータ教材を開発した。そして基本構想に基づく手だての試案を作成し、開発したコンピュータ教材を活用した授業実践を行い、結果を分析し考察することができた。

その結果、本研究の指導の手だてが、小学校社会科歴史学習において児童の考える力を高める上で、有効であることが確かめられた。

2 今後の課題

本研究では、社会科歴史学習においてコンピュータ教材を活用することを一つの選択肢としながら考えた。今後、著作権との兼ね合いもあるが、他の単元においてもより効果が表れる活用場面を考えながら、教材の開発を行っていきたい。

<おわりに>

長期研修の機会を与えてくださいました関係所機関の各位並びに所属校の諸先生方と児童のみなさんに心から感謝申し上げます、結びのことばといたします。

【参考文献】

- 北俊夫 (2000), 『社会科の責任』, 東洋館出版
北俊夫 (2002), 『社会科の基礎・基本』, 明治図書
有田和正 (2002), 『調べる力・考える力を鍛えるワーク』, 明治図書
古川清行編 (1997), 『日本の歴史ファックス資料』, 東洋館出版
半場方人 (2005), 『JavaScript辞典』, 秀和システム

【引用Webページ】

- 国立国会図書館 <http://www.ndl.go.jp/>
横浜市立図書館 <http://www.city.yokohama.jp/me/kyoiku/library/index.html>
龍馬写真館 <http://www5.inforiyoma.or.jp/~appli/>
京都大学附属図書館 維新資料画像データベース <http://ddb.libnet.kulib.kyoto-u.ac.jp/exhibit/ishin/>
敬天愛人 <http://www.page.sannet.ne.jp/ytsubu/>
日本最初の富岡製糸 <http://www.city.tomioka.gunma.jp/kanko/kanko0110.htm>
横浜ものはじめ <http://hamakazuchan.web.infoseek.co.jp/yokohama.html>
IPA教育用画像素材集 <http://www2.edu.ipa.go.jp/gz/index.html>
大日本帝国憲法発布式 <http://www.cc.matsuyama-u.ac.jp/~tamura/teikokuhappusiki.htm>
了仙寺 <http://www.cc.matsuyama-u.ac.jp/~tamura/teikokuhappusiki.htm>
明治村画像庫 <http://meijimura.nce.buttohi.net/>
幕末写真館 <http://www.dokidoki.ne.jp/home2/quwatoro/bakumatu.shtml>
探検コム <http://www.tanken.com/>

【参考Webページ】

- 幕末の黒船 <http://www1.cts.ne.jp/~fleet7/Museum/Muse015.html>
消費者物価 <http://chigasakioows.cool.ne.jp/ima-ikura.shtml>
ターニングポイントとしての明治 <http://homepage2.nifty.com/kumando/index.html>
用語集 <http://www.tcp-ip.or.jp/~syaraku/yougo.htm>

補充資料

< 目次 >

【補充資料1】学習指導案	補充1
【補充資料2】主題テスト	補充9
【補充資料3】事前・事後テスト	補充10
【補充資料4】実態調査用紙	補充11
【補充資料5】コンピュータ教材についての意識調査	補充12
【補充資料6】単元において活用したコンピュータ教材について	補充13

【補充資料1】学習指導案

小学校第6学年社会科指導案

期 間 9月6日(火)～9月26日(火)
 対 象 紫波町立片寄小学校第6学年
 男6名、女5名 計11名
 指導者 今淵 哲哉

1 単元名 新しい時代の幕あけ(使用教科書会社 教育出版) 7時間扱い

2 目標
 黒船の来航、明治維新、文明開化などについて調べ、欧米の制度や文化を取り入れながら諸改革を行っていき、産業が発展したことや、大日本帝国憲法制定などの近代化やその目的を理解することができるようにする。

3 教材観
 本単元では、「新しい時代の幕あけ」の中で黒船の来航、明治維新、文明開化、自由民権運動、大日本帝国憲法の制定、国会の開設などの歴史的事象を取り上げ、これらを具体的に調べることを通して、わが国は廃藩置県や四民平等、富国強兵策などの諸改革を行い、欧米の文化を取り入れながら、近代化を進めたことが分かるようにすることをねらいとしている。
 明治維新をめぐる社会の動きは、非常に複雑で理解しづらいものであると思われる。それは、取り上げるべき歴史的事象や、取り上げるべき歴史上の人物が多く、それらの歴史的事象や歴史上の人物がそれぞれ複雑に関連し合っているため、児童が調べていく際に煩雑になりやすいと思われるからである。また、資料にてでくる語句の意味も理解しがたいものも多く、内容の理解も難しい単元であると思われる。

4 児童観
 児童は、概ね歴史学習に興味をもち、授業以外でも歴史に関する資料を見たり、歴史上の人物の伝記等の図書資料を読んだりしている。授業においても、歴史的事象の生じた要因や社会に与えた影響に興味をもち、教科書や資料集の資料から、重要な部分も見つかったり、与えられた資料から、課題解決を図ろうとする態度は十分身に付いている。
 しかしながら、資料からなにを見つけてよいか分からなかったり、語句の意味が分からないまま学習を進めてしまったりして、歴史的事象の事実を押さえられず、複数の資料を見比べることが難しく、歴史的事象や歴史上の人物との関連を見いだしにくくなっていることが多い。そのため、歴史的事象の生じた要因や社会に与えた影響を類推しにくくなることも見られる。

5 指導観
 本単元では、まず、各単位時間において時代背景をとらえさせた上で、基本となる歴史的事象を取り上げ、それが生じた理由や社会に与えた影響について類推できるように構成したいと考える。
 そのために、まず歴史的事象の事実を正確にとらえさせた上で、複数の資料より歴史的事象や歴史上の人物との関連を見いださせるようにさせていきたい。また、為政者の立場からだけではなく、民衆の立場との関連も見いださせるようにさせたい。そして、根拠をもって歴史的事象の生じた要因や、社会に対する影響について類推することができるようにさせていきたいと考える。

6 単元の評価規準

評 価 規 準			
社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断	観察・資料活用の技能表現	社会的事象についての知識・理解
黒船の来航を契機に長く続いた武士の時代の支配が終わり、近代的な新しい国家をつくらうとする動きがでてきたことに関心をもち、その経過について意欲的に調べようとする。	明治政府が近代的国家としてのしくみを整えていった様子を、前の時代からの変化や外国との関係から考えることができる。	年表や地図などの資料を活用して、明治政府の政策や対外関係を、国際的背景を考えながら調べることができる。	明治政府が諸改革を行って近代的な国家づくりをめざしたこと、その後、国力を充実させて国際的地位を高めたことを、外国との関係の変化をふまえて理解することができる。

7 単元指導計画

時 数	学 習 内 容
1	江戸幕府がペリーの来航によって鎖国をやめるに至った経緯と開国が世の中に与えた影響について考える
2	江戸幕府をとりまく、世の中の動きを調べ、江戸幕府が倒れるまでの過程とその要因について考える
3	明治政府がとった政策について調べ、それが大名や武士および民衆に与えた影響について考える
4	明治政府が西洋に負けない国づくりのために行った富国強兵策について調べ、その政策の目的について考える
5	江戸時代と比較しながら、人々の暮らしがどのように変化したが、また、文明開化が今の時代に与えた影響について考える
6, 7	自由民権運動の起こりから憲法制定までの経過をつかみ、人々が期待していた政治、明治政府がめざした国づくりがどのように達成されたか考える

8 展開

1 / 7 時間 (全 7 時間)

学習内容 江戸幕府がペリー来航によって鎖国をやめるに至った経緯と開国が世の中に与えた影響について考える。

具体の評価基準

- ・ 頑なに鎖国政策を行ってきた江戸幕府が鎖国を解き開国するに至った経緯について、関心をもって調べようとする。 (社会的現象への関心・意欲・態度)
- A 鎖国政策を行ってきた江戸幕府が鎖国を解くには大きな要因があることが分かり、意欲的に調べようとする。
- B 鎖国政策を行ってきた江戸幕府が鎖国を解き開国するに至った経緯について関心をもって意欲的に調べようとする。
- C への支援 鎖国政策が行われていた理由を示し、開国の決断が大きなものであることを知らせる。
- ・ 江戸幕府が開国した理由と開国による影響をペリー来航という歴史的事象に結び付けて考えることができる。 (社会的な思考・判断)
- A 江戸幕府が開国した理由と社会に与えた影響について、時代背景をとらえながら、幕府の苦悩やペリーのもたらしたものを結び付けて考えることができる。
- B 江戸幕府が開国した理由と社会に与えた影響について、幕府の苦悩やペリーのもたらしたものなどから考えることができる。
- C への支援 資料から読みとれることを指摘させる。

	学習内容・活動	指導上の留意点	コンピュータ教材・資料
導入	<p>1 はじめの資料を見て、学習する 中心の歴史的現象について知る</p> <p>基本となる歴史的現象 江戸幕府は、これまで行っていた鎖国をやめ、外国に対し開国することにした</p> <p>2 学習課題を知る 江戸幕府がなぜ開国をし、世の中にどのような影響を与えたのか考えよう</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ これまでの時代の流れについて確認する (特に鎖国政策については理由も確認する) ・ ワークシートを配布する 	<p>プロジェクター・一斉指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 鎖国政策 ・ 年表
展開	<p>3 課題を追究する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 課題解決に向け、コンピュータ教材を使って資料を調べる ・ ワークシートに資料からとらえたこと、見いだしたこと、類推したことを記入しながら進める <p>・ ペリー来航について調べる</p> <p>・ ペリーが来航した理由について調べる</p> <p>・ 幕府の苦悩と決断の理由について調べる</p> <p>・ 開国による影響について調べる</p> <p>4 調べたことをもとに学び合う</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教材の操作方法について確認する ・ ワークシートへの記入の仕方について確認する <p>つかむ段階</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 開国のきっかけとしてペリーの来航があったことをとらえさせる <p>つなげる段階</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ペリーの来航と人々の思いについて関連を見いださせる ・ ペリーの考えと幕府の苦悩と行動の関連を見いださせる <p>さぐる段階</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 開国してどのような影響が表れたのか、根拠をもって類推させる ・ ワークシートに記入させた後、一斉指導により確認する ・ ワークシートをもとに資料からとらえたことを発表させる ・ 幕府の苦悩、開国による影響について話し合わせる ・ 条約については、個別学習では内容が難しいため、教師側から問題点を説明する 	<p>コンピュータ教材・個別</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ペリー来航説明 港を防御する武士 【補充資料 p13】 ・ これまでの外国船の来航図 ・ 黒船の様子【補充資料 p13】 ・ ペリーの考え、来航の目的、ペリーの航路、ペリーの行動、幕府 (阿部政弘) の苦悩、幕府の行動、武力の違い 【補充資料 p13】 <p>・ 条約締結、日米和親条約 ペリーの献上品、開港地 日米修好通商条約 ・ 発展的に調べたい児童に対して、他の web ページを教材に準備する</p>
終末	<p>5 学習のまとめをする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習課題に対する考えを書く <p>6 感想を記入する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分で調べたことや学び合いで得たことから学習課題の解決を図らせる 	<p>プロジェクター・一斉指導</p> <p>学習のポイントを表示する</p>

2 / 7 時間 (全 7 時間)

学習内容 江戸幕府をとりまく、世の中の動きを調べ、江戸幕府が倒れるまでの過程とその要因について考える。

具体の評価基準

- ・江戸幕府が倒れた要因を暮らしの変化や討幕運動の高まりと結び付けて考えることができる。
(社会的な思考・判断)
- A 江戸幕府が倒れた要因を開国による暮らしの変化により起こる人々の不満、討幕運動に関わった人々の考えを結び付けて考えることができる。
- B 江戸幕府が倒れた要因を、暮らしの変化や討幕運動の高まりと結び付けて考えることができる。
- Cへの支援 江戸幕府が倒れた要因を教材から読みとれるように支援する。
- ・江戸幕府が倒れた要因について時代背景をとらえながら調べることができる。
(観察資料活用の技能・表現)
- A 江戸幕府が倒れた要因について、これまでの時代背景を押さえた上で変化をとらえながら各種の資料から調べまとめることができる。
- B 江戸幕府が倒れた要因について、時代背景をとらえながら各種の資料を調べることができる。
- Cへの支援 資料から分かることを一つずつ見つけださせる。

	学 習 内 容	指 導 上 の 留 意 点	コンピュータ教材・資料
導 入 8	1 はじめの資料を見て、学習する 中心的な歴史的事象について知る 基本となる歴史的事象 15代将軍徳川慶喜が政治の権利を朝廷に返し、江戸幕府は倒れた	・これまでの時代の流れについて確認する(開国によっておきた影響および、江戸時代の流れについて確認する) ・ワークシートを配布する	プロジェクター・二斉指導 ・大政奉還図 ・年表 ・2つの条約
	2 学習課題を知る 江戸幕府はなぜ政治の権利を返したのだろうか		・学習課題の提示
展 開 30	3 課題を追究する ・課題解決に向け、コンピュータ教材を使って資料を調べる ・ワークシートに資料からとらえたこと、見いだしたこと、類推したことを記入しながら進める ・貿易の始まりと弊害について調べる ・幕府の力の弱まりについて調べる ・外国の力との結び付きについて調べる ・討幕運動と中心的人物について調べる ・幕府の倒れた理由について調べる	・教材の操作方法について確認する ・ワークシートへの記入の仕方について確認する つかむ段階 ・開国をして貿易が始まったことによって人々の生活が苦しくなっていたことをとらえさせる つなげる段階 ・幕末期における幕府の力の弱まりと、外国勢力と結び付き力のもつ藩の台頭の関連を見いださせる さぐる段階 ・なぜ、幕府が政権を返すに至ったのかを民衆の不満、討幕運動、外国勢力の台頭から類推させる ・ワークシートをもとに資料からとらえたことを発表させる ・児童がとらえられなかった部分について補足説明を行う	コンピュータ教材：図解 ・外国人による買入れの図、米と生糸の値段の推移のグラフ【補充資料14】 ・阿部政弘の行動、徳川家光の考え、外国のねらいイギリスとの結び付き【補充資料14】 ・薩英戦争、下関戦争 ・討幕運動に関わった中心的人物、坂本龍馬、大久保利通、西郷隆盛木戸孝允の考え【補充資料14】 ・討幕運動に関わった中心人物の出身地図 ・発展的に調べたい児童に対して、他のwebページを教材に準備する
終 末 7	5 学習課題を解決する ・学習課題に対する考えを書く 6 感想を記入する	・自分で調べたことや学び合いで得たことから学習課題の解決を図らせる	プロジェクター・二斉指導 学習のポイントを表示する

3 / 7 時間 (全 7 時間)

学習内容 明治政府がとった政策について調べ、それが大名や武士および民衆に与えた影響について考える。

具体の評価基準

- ・明治政府がどのような人々によって組織され、新しい社会をつくるためにどのような改革を行ったかに興味をもつ。(社会的事象への関心・意欲・態度)
- A 明治政府が、新しい社会をつくるために行った改革について、前の時代からどのように変化したかに興味をもつ。
- B 明治政府が、新しい社会をつくるために行った改革について関心をもつ。
- C への支援 明治政府が、新しい社会をつくるために行った改革を前の時代からどのように変化したか視点を与える。
- ・明治政府が行った改革によって、社会に与えた影響について考えることができる。(社会的な思考・判断)
- A 明治政府が行った改革によって、武士や農民・町人に与えた影響についてそれぞれの思いを考えることができる。
- B 明治政府が行った改革によって、武士や農民・町人に与えた影響について考えることができる。
- C への支援 明治政府が行った改革を、前の時代からの変化を考えさせる。

	学 習 内 容	指 導 上 の 留 意 点	コンピュータ教材・資料
導 入 8	1 はじめの資料を見て、学習する 中心的な歴史的な事象について知る 基本となる歴史的な事象 江戸幕府に代わり明治政府が つくれた。明治政府は国づくり のために社会の改革をはじめた	・これまでの時代の流れについて確認する(開国によっておきた影響について確認するとともに討幕運動に関わった人たちについて確認する) ・ワークシートを配布する	プロジェクター・一斉指導 ・大政奉還図 ・年表
	2 学習課題を知る 新しい政府は、どのような国づくりをして、社会にどのような影響を与えたのだろうか		・学習課題の提示
展 開 30	3 課題を追究する ・課題解決に向け、コンピュータ教材を使って資料を調べる ・ワークシートに資料からとらえたこと、考えたことを記入しながら進める ・改革を進めた人物について調べる ・明治政府が示した政治の方針について調べる ・廃藩置県について調べる ・四民平等政策について調べる ・解放令について調べる 4 調べたことをもとに学び合う ・政府の国づくりについて調べる	・教材の操作方法について確認する ・ワークシートへの記入の仕方について確認する つかむ段階 ・新しい時代に入り、討幕運動に関わった人々によって改革が進められたことをとらえさせる ・五箇条のご誓文の内容についてとらえさせる つなげる段階 ・明治政府が行った政策と、そのことによる大名、武士、農民、町人、差別階級の人たちの思いについて関連を見いださせる さぐる段階 ・明治政府は、なぜ、これらの改革をしていったのかを類推させる ・新しい政府が行った政策により社会に与えた影響を類推させる ・ワークシートをもとに資料からとらえたことを発表させる ・与えた影響、思いを中心に発表し、学び合う ・児童がとらえられなかった部分について補足説明を加える	コンピュータ教材・個別 ・改革を進めた人々、討幕運動を進めた人々の出身地【補充資料 p15】 ・五箇条のご誓文内容、江戸時代の様子【補充資料 p15】 ・廃藩置県説明、東北地方の廃藩置県地図 ・四民平等説明、江戸時代の身分制度、四民平等内容、武士の身分、解放令説明、差別されてきた人の身分・職業【補充資料 p15】
終 末 7	5 学習課題を解決する ・学習課題に対する考えを書く 6 感想を記入する	・自分で調べたことや学び合いで得たことから学習課題の解決を図らせる	プロジェクター・一斉指導 学習のポイントを表示する

4 / 7 時間 (全 7 時間)

学習内容 明治政府が西洋に負けない国づくりのために行った富国強兵策について調べ、その政策の目的について考える。

具体の評価規準

- ・ 明治政府が、富国強兵策を行った理由について西洋諸国との社会の仕組みとの違いから考えることができる。 (社会的な思考・判断)
- A 富国強兵策を行った理由についてこれまでの時代との違いを比較するとともに、西洋諸国との社会の仕組みの違いから考えることができる。
- B 富国強兵策を行ってきた理由について西洋諸国との社会の仕組みの違いから考えることができる。
- C への支援 富国強兵策を行ってきた理由について、岩倉使節団が西洋諸国を巡って見たものや、これまでの時代背景から考えさせる。
- ・ 明治政府が、富国強兵のために行った政策は西洋諸国に追いつこうとするために行われたことを理解する。 (社会的な事象についての知識・理解)
- A 富国強兵策が行った内容とそれぞれの政策の特徴をとらえる。
- B 富国強兵策が行われた理由とその内容について理解する。
- C への支援 前の時代との変化に着目させ、どのような国になっていったのかとらえさせる。

	学 習 内 容	指 導 上 の 留 意 点	コンピュータ教材・資料
導 入 8	1 はじめの資料を見て、学習する 中心の歴史的な事象について知る 基本となる歴史的な事象 明治政府は、日本が西洋に比べ おけている事実を直そうと考 える	・ これまでの時代の流れについて確認する (日本が欧米諸国に比べて国力が弱く文明がおくれていたこと、不平等条約を結ばされたことを想起させる) ・ ワークシートを配布する	プロジェクター・一斉指導 ・ ペリーの献上品 ・ ペリー艦隊の図
8	2 学習課題を知る 明治政府は、何のために様々な改革を行っていったのか考えよう		・ 学習課題の提示
展 開 30	3 課題を追究する ・ 課題解決に向け、コンピュータ教材を使って資料を調べる ・ ワークシートに資料からとらえたこと、見いだしたこと、類推したことを記入しながら進める ・ 岩倉使節団の海外視察について確認する ・ 富国強兵策について調べる 殖産興業について 徴兵令について 地租改正について	・ 教材の操作方法について確認する ・ ワークシートへの記入の仕方について確認する ・ ワークシートに記入させた後、一斉指導により確認する つかむ段階 ・ 岩倉使節団が、欧米諸国で見たり聞いたりしたことをとらえる つなげる段階 ・ 政府が行った殖産興業、徴兵令、地租改正をそれぞれ前の時代との様子との関連を見いださせる さぐる段階 ・ 政府が何のために改革を行っていったのか類推する ・ ワークシートをもとに資料からとらえたことを発表させる。 ・ 児童がとらえられなかった部分について補足説明を加える	コンピュータ教材・個別 ・ 岩倉使節団世界一周の旅 岩倉使節団の見たもの 【補充資料 p16】 ・ 富岡製糸工場、幕末期の生糸の生産、各地の官営工場、徴兵令説明、武士による軍隊、地租改正説明、地租の具体的なイメージ、これまでの税の仕組み【補充資料 p16】 ・ 発展的に調べたい児童に対して、他の web ページを教材に準備する
終 末 7	5 学習課題を解決する ・ 学習課題に対する考えを書く 6 感想を記入する	・ 自分で調べたことや学び合いで得たことから学習課題の解決を図らせる	プロジェクター・一斉指導 学習内容のポイントを表示する

6,7 / 7 (全7時間)

学習内容 自由民権運動の起こりから憲法制定までの経過をつかみ、人々が期待していた政治、明治政府がめざした国づくりがどのように達成されたか考える。

具体の評価基準

- ・明治政府が国会を開き、憲法を制定するに至った経緯には人々の願いの結集である自由民権運動があることを考えることができる。(社会的な思考・判断)
- A 明治政府が国会を開かなければならなかった背景について、民衆の願いの結集である自由民権運動があることを考えることができる。
- B 明治政府が国会を開かなければならなかった理由について、自由民権運動が関わっていたことを考えることができる。
- Cへの支援 教材資料により、民衆がどのような不満をもっていたか、どのように政府に働きかけたかという点について着目させる。
- ・明治政府が国会を開くために作成した憲法、選挙制度について理解するとともに、時代背景にどのような事実があるかを理解する。(社会的事象についての知識・理解)
- A 明治政府が作成した憲法、選挙制度について特徴を具体的にとらえるとともに、時代背景となった自由民権運動の起こりの背景をとらえることができる。
- B 明治政府が作成した憲法、選挙制度について特徴をとらえるとともに、時代背景として自由民権運動があったことをとらえることができる。
- Cへの支援 教材資料によりどのような特徴があるかを資料を比較させ相違点を見つけださせる。

	学 習 内 容	指 導 上 の 留 意 点	コンピュータ教材・資料
導 入 8	1 はじめの資料を見て、学習する 中心となる歴史的な事象について知る 基本となる歴史的な事象 明治政府は、国会を開き、国民の意見を聞いて、政治をすることを約束した	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの時代の流れについて確認する(明治政府が行ったきた政策、中心となった人物や人物の出身地などについて中心に行う) ・ワークシートを配布する 	<p>プロジェクター・一斉指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・明治政府の政策 ・中心となった人物
	2 学習課題を知る 政府が国会を開くことになった原因と政治に与えた影響を考えよう		<ul style="list-style-type: none"> ・学習課題の提示
展 開	<p>3 課題を追究する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題解決に向け、コンピュータ教材を使って資料を調べる ・ワークシートに資料からとらえたこと、見いだしたこと、類推したことを記入しながら進める ・土族の反乱について調べる ・農民一揆について調べる ・自由民権運動について調べる <p>4 調べたことをもとに学び合う</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教材の操作方法について確認する ・ワークシートへの記入の仕方について確認する ・政府を動かすきっかけになった事象について調べさせる つかむ段階 <ul style="list-style-type: none"> ・明治政府に対して、土族、農民などが不満をもち、反乱や一揆が相次いで起こった事実をとらえさせる つなげる段階 <ul style="list-style-type: none"> ・土族の反乱や農民による一揆の起こりを既習の学習との関連を見いださせる ・自由民権運動がどのように起こり、広まっていったかを板垣退助の考え方との関連を見いださせる ・ワークシートをもとに資料からとらえたことを発表させる どのような経緯で、自由民権運動が広まっていったのか学び合わせる ・児童がとらえられなかった部分について補足説明を加える 	<p>コンピュータ教材・個別</p> <ul style="list-style-type: none"> ・西南戦争、各地に広まる土族の反乱 【補充資料 p18】 ・各地に起こる農民一揆 ・各地に広がる自由民権運動【補充資料 p18】 ・自由民権運動説明、板垣退助の考え方、政府による自由民権運動のとりしまり ・発展的に調べたい児童に対して、他の web ページを教材に準備する

展	<p>5 課題を追究する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題解決に向け、コンピュータ教材を使って資料を調べる ・ワークシートに資料からとらえたこと、考えたことを記入しながら進める 	<ul style="list-style-type: none"> ・個別学習により、国会を開く前に行われたこと、大日本帝国憲法の特徴、国会開設に向けた準備、帝国議会の様子について調べさせる 	
開	<ul style="list-style-type: none"> ・大日本帝国憲法の制定について調べる ・国会を開く準備としての政党の設置について調べる ・大日本帝国憲法の特徴を調べる ・国会を開く準備としての総選挙について調べる 	<p>つかむ段階</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国会を開く前に大日本帝国憲法が伊藤博文らによって制定されたこと、自由民権運動を支えた人物によって政党がつくられていったことをとらえさせる <p>つなげる段階</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大日本帝国の特徴を、自由民権運動を行ってきた人々が創った私議憲法（五日市憲法）と比較させ明らかにさせる ・総選挙で選挙権が与えられた人が限定されていたことを今の時代の選挙権と比較させる 	<p>コンピュータ教材・個別</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大日本帝国憲法の制定、政党の設置 ・大日本帝国憲法内容、五日市憲法内容【補充資料 p18】 ・自由民権運動をした人々の考え ・第1回総選挙、参政権、今の時代の参政権【補充資料 p18】
75	<ul style="list-style-type: none"> ・開かれた国会の様子について調べる <p>6 調べたことをもとに学び合う</p>	<p>さぐる段階</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国会には、どのような人々が参加しているかをとらえ、これまでの学習から政治の仕方にもどのような変化があったのか類推させる ・ワークシートをもとに資料からとらえたことを発表させる ・自由民権運動の起こりと国会開設を関連づけてとらえさせる ・国会が開かれたことにより、政治の仕組みがどのように変わっていったのかを学び合わせる ・児童がとらえられなかった部分について補足説明を加える 	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回帝国議会 ・帝国議会の様子【補充資料 p18】 ・発展的に調べたい児童に対して、他の web ページを教材に準備する
終末7	<p>7 学習課題を解決する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習課題に対する考えを書く <p>8 感想を記入する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で調べたことや学び合いで得たことから学習課題の解決を図らせる 	<p>プロジェクター・一斉指導</p> <p>学習内容のポイントを表示する</p>

社会テスト

6 年氏名

- 1 日清戦争・日露戦争について<資料1>を見て答えましょう。
 ① 日清戦争で戦場となったところは、どこでしょうか。(事実をとらえる)

- 2 日清戦争・日露戦争について<資料2>を見て答えましょう。
 日露戦争の後、講和条約に反対して暴動が起きた理由を書きましょう。
 (類推する)

- 3 選挙の様子について次の問いに答えましょう。

① 資料3からわかることを書けるだけ書こう (事実をとらえる)

② 資料3では、投票できる人の割合はどうなっていますか。

③ 資料3、資料4からどんなことがわかるでしょうか。(関連を見いだす)

④ 資料4を見て、投票できる人の割合をさらに大きくするにはどのようなしたらよ
 いと思いますか。
 (類推する)

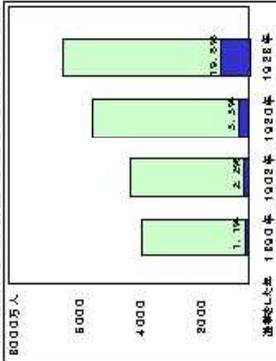
- 4 次の二人の考え方について<資料5>と<資料6>を見て答えましょう。
 二人の考え方の似ているところを書きましょう。(関連を見いだす)

日清戦争、日露戦争の
 戦場の図
 教育出版発行小学校6年社
 会 87ページの図より

<資料1>日清・日露戦争の戦場

日清戦争		日露戦争	
戦争が終わった後の講和条約	1 リヤオトン半島、台湾を日本が 2 はいしよ金約3億1000万円をもらおう	1 サハリン南半分をもらおう	2 はいしよ金はなし
戦争中の国内の様子	それほどの変化はなかった	税金が2回引き上げられ人々の生活は苦しかった	講和条約に反対する暴動が起きた
講和条約を結んだ後の国内の様子	はいしよ金の一部で工場をつくった		

<資料2>日清・日露戦争の講和条約と国内の様子
 ＊はいしよ金とは戦争に負けた国が戦争に勝った国に対して、しはらうお金のこと



年	投票できる人の資格 (右)
1890年	25歳以上の男子 納めている税金15円以上
1902年	25歳以上の男子納めている税金10円以上
1920年	25歳以上の男子納めている税金3円以上
1928年	25歳以上の男子税金は関係なし

<資料3>選挙で投票できる人の変化 <資料4>投票できる人の資格 (右)



<資料5>
 陸奥宗光の考え



<資料6>
 小村寿太郎の考え

私は、もともとは武士だったので、その後、彼人になって国のために働いてきました。待にも、江戸時代の末に船はれた外国人が日本を罪をおかしても日本の法で裁判できないという不平等な条約は、なんとしても直さなければならぬと思います。はりました

私は、アメリカに行つて法律(ほうりつ)を勉強してきました。私は、外務(がいむ)大臣として、日露戦争の後に講和条約(こうわじょやく)を結んだ後、政府をよめました。再び政府にもどったときに、人々の暮らしをよくするたために、外国からの輸入品に課税(しよやく)を決められないという不平等な条約(じょうやく)をなくしようと力をつきました

事前・事後テスト

6 年氏名

- 江戸幕府が鎖国をやめ開国することになったことと、一番関係の深い外国人の名前と開国を要求した理由を書きましょう。
名前 理由
- 江戸幕府が鎖国をやめ開国をした理由を書きましょう。
- 幕末に活やくした坂本龍馬、木戸孝允、大久保利通、西郷隆盛の考え方に共通することは何でしょう
- 新しい政府は西民平等という社会の仕組みをつくりましたが、このことよって、次のことについて人々の生活は江戸時代に比べてどう変わったのですか。
職業 ⇄
結婚 ⇄
- 明治政府が行った廃藩置県により、武士はどうなりましたか。
- 大久保利通たちは、国の収入を上げるため地租改正という年貢に変わる税の仕組みをつくりましたが、農民にとって江戸時代と比べて生活は楽になりましたか。それはなぜですか。
- 大久保利通たちが、国を強くするためにつくったものは何ですか。
- 開国すると都市を中心にした世の中の様子が変わってきましたが、それによって、人々の生活はどのように変わってきましたか。次の3つのことで江戸時代に比べて変わったことを書きましょう。
食べ物 服そう・日用品 交通

【補充資料3】事前・事後テスト

- どうしてこのような変化が起きたのでしょうか。
- 子どもたちの暮らしには、どのような変化があったのでしょうか。
- 国会を開き国民の意見を聞いて政治を行うべきだという運動について次の問いに答えましょう。
① この運動の名前を書きましょう。

② この運動の中心となった人物の名前を書きましょう。
- 日本で最初の憲法について次の問いについて書きましょう。
① 憲法の名前を書きましょう

② 中心になってつくった人

③ 憲法の中で中心とされる人
- 明治はじめのころは、薩摩(さつま)藩、長州(ちようしゆう)藩、出身の人たちを中心に政治を進めていきましたが、藩と比べて、国会が開かれるようになって、政治の進め方はどのように変わっていったのでしょうか。

社会科の学習についての調査

6年	番名	前
----	----	---

この調査は、社会科の学習について、みなさんがみんなどのようなように思っているかを和知り、これからの学習に役立てるものです。
 ティーストではありませんで、自分の思ったとおりに答えてください。

1 これまでの社会科の歴史学習で、学習課題についてくわしく調べるときにあなたが取組んだことの歴史学習で、調査対象で○をつけて下さい。

- () ア 教科書や資料集、地図帳などを使って調べる。
- () イ 学校の図書室の本を使って調べる。
- () ウ レンジャーやビデオ（インターネット）を使って調べる。
- () エ オムシや施設などから資料を取り寄せて調べる。
- () カ その他

* 「カ」を選んだ人は、その調べ方を具体的に下のらんに書いて下さい。

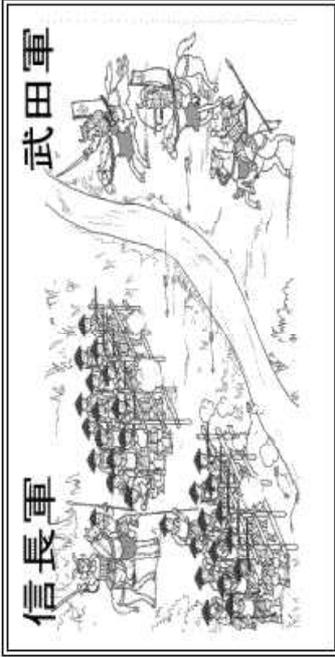
2 社会科の歴史学習で調べた活動をするとき、あなたが特に困ることはどんなことですか。

- () ア 調べた資料が少なくない。
 - () イ 資料や辞典など調べる材料が少ない。
 - () ウ 学習課題について調べるときにどの資料を使ったらよいか分からず、何を調べていいか分からない。
 - () エ 資料から書いてある言葉が難しい。
 - () カ その他
- * 「カ」を選んだ人は、内容を具体的に下のらんに書いて下さい。

3 社会科の歴史学習で、調べて分かったことをまとめるときにどんなことに気をつけているかな。

- () ア 調べてある資料や教科書を書き写す。
 - () イ いろいろな資料や教科書を見て、書いてある言葉を使ってまとめる。
 - () ウ 調べたことをもとに、自分の考えも入れながらまとめていく。
 - () エ その他
- * 「エ」を選んだ人は、そのまとめ方を具体的に下のらんに書いて下さい。

4 次の資料を見て問題に答えてください。



< 事実をとらえる >

信長軍の作戦と思われるところを下のらんに書いてください。言葉で表せないときは、図の中で作戦だと思うところを○を付けてください。

5 次の出来事や建物、「織田信長」「豊田信長」「徳川家康」の3人のうちどれか1つは関係があるか。信長と関係のあるものを○の中に書いと関係のあるものには口を、家康と関係のあるものには△を書いてください。 < 歴史的事実の関連を見いだし >

- 刀狩り() 関ヶ原の戦い() 長篠の戦い()
- 延暦寺の焼き討ち() 後地() 朝鮮出兵()
- 桶狭間の戦い() 大阪城() 江戸城() 安土城()

6 次の二つの資料を見て問題に答えてください。

織田信長
(1534~1582)

「かれらは自分の利益を考えず熱心に教えを伝えている。感心だ。」
 「それにしても、西洋にはめずらしいものがたくさんあるのう。」

フランシスコ・ザビエル
(1534~1582)

「少しでも多くの人たちを救うためにキリスト教を伝えたい。」
 「しかし信長という王は、めずらしいものにとってもきまやみがある王なのだ。」

信長はキリスト教を保護しましたがそれがそれによって世の中になんか変化があったと思いますか。

< 歴史的事実が社会に与えた影響を類推する >

【補充資料5】コンピュータ教材についての意識調査

「新しい時代の幕開け」の授業でのコンピュータ資料についての調査

6 年 氏 名

この調査はコンピュータの資料が学習に役立つかどうかについて知るために行います。テストではありませんので、自分の思ったとおりに書いてください。

I 次の質問のうちあなたの考えに一番近いものの記号に○を書いてください。また、理由のらんにはあなたの考えを言葉で書いてください。

1 あなたは、学習する内容をわかりやすくするのにコンピュータの資料は役に立ちましたか。

- ア 役に立ちました
- イ どちらかといえば役に立ちました
- ウ どちらかといえば役に立ちませんでした
- エ 役に立ちませんでした

理由

2 あなたは、資料をならべて表示するコンピュータの機能は役に立ちましたか。

- ア 役に立ちました
- イ どちらかといえば役に立ちました
- ウ どちらかといえば役に立ちませんでした
- エ 役に立ちませんでした

理由

3 あなたは、コンピュータの資料を見るとときに言葉の意味を表示する機能は役に立ちましたか

- ア 役に立ちました
- イ どちらかといえば役に立ちました
- ウ どちらかというと役に立ちませんでした
- エ 役に立ちませんでした

理由

4 あなたは、コンピュータの資料をみて、問題を考えるときに、ヒントを示す機能は役に立ちましたか。

- ア 役に立ちました
- イ どちらかというと役に立ちませんでした
- ウ どちらかというと役に立ちませんでした
- エ 役に立ちませんでした

理由

II 次のことについて書いてください。
コンピュータ教材のよかったところ

【補充資料6】単元において活用したコンピュータ教材について

コンピュータ教材の説明

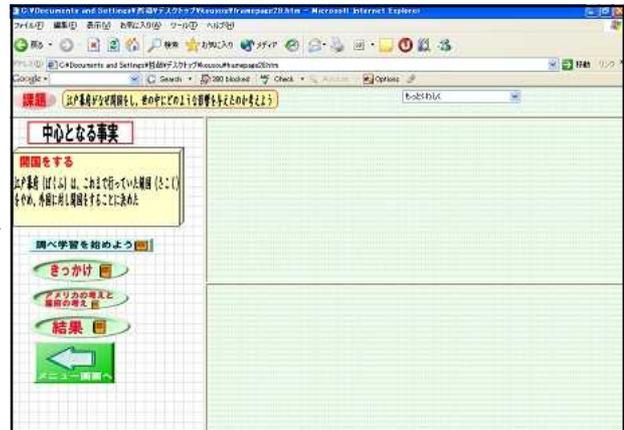
各単位時間の教材の構造は以下のとおりである。(示している資料は教材から抜粋)

教材はホームページビルダーVer.9で作成した。

第1時「鎖国の終わり」



教材のトップページ
各単位時間ともこのページから入る



第1時の基本フレーム
この時間では3つのことについて調べる



開国のきっかけとしてペリー来航の事実をとらえさせる資料



ペリー艦隊の様子をとらえさせ、ペリー来航による人々の思いとの関連を見いださせる資料

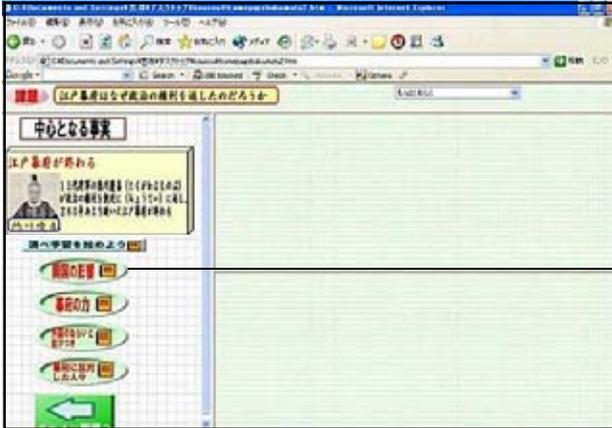


ペリーと幕府の考えを比較させる資料

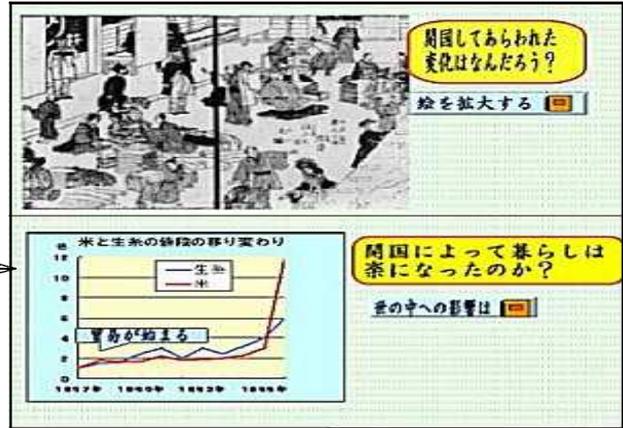


ペリーが来航した目的を補完したり、幕府の苦悩の要因を示したりする資料

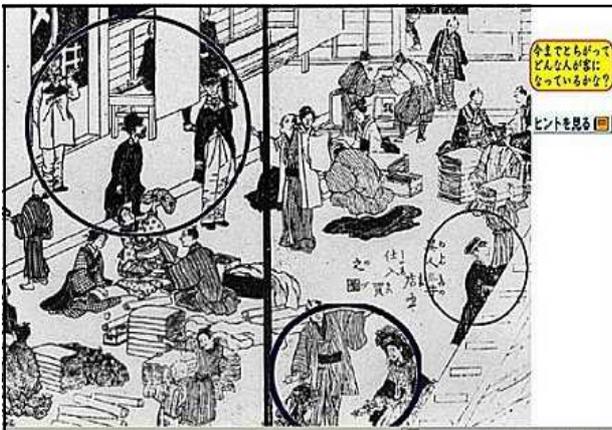
第2時「武士の時代の終わり」



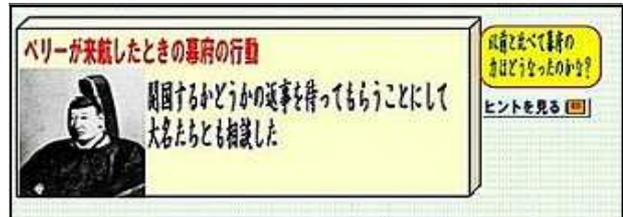
第2時の基本フレーム
この時間で調べる内容は4点ある



開国によって貿易が始まったこととそれに対する弊害をとらえさせる資料

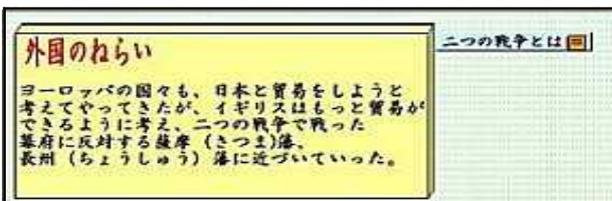


開国して貿易が始まったことを外国人が買い付けに来ていることの着眼点を示し、とらえさせる資料

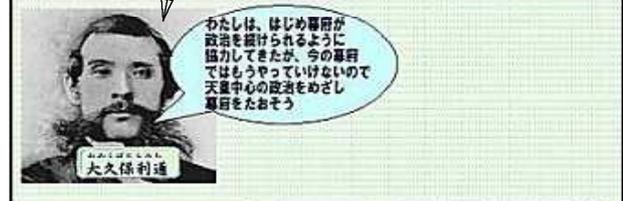


徳川家光が大名に言った言葉
私は、生まれながらの将軍(しょうぐん)である。これからは、おまえたち大名を家来(けらい)としてあつかう。

幕府の力の衰えを、幕府の力のあった時代と比較させる資料

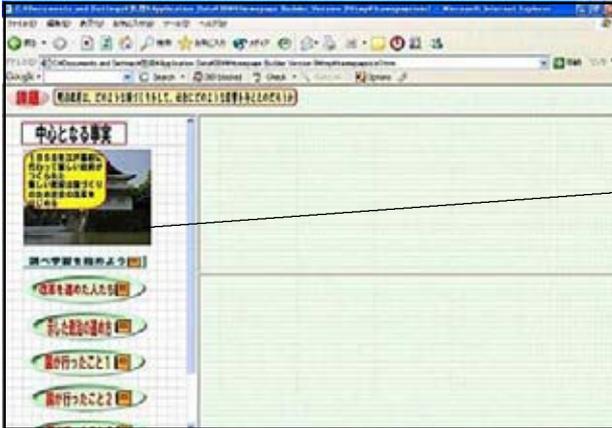


外国勢力の台頭と、その勢力と結びつく藩を示す資料



討幕運動に関わった人々の考え方の共通点を見いださせる資料(人物をクリックするとその人物の考え方を下に表示する)

第3時「新しい政府の国づくり」



第3時の基本フレーム
確認するための内容が一つと調べる内容が4点ある

明治政府は、木戸孝光を中心に五か条のご誓文(せいもん)を出し、政治の進め方を示した

五ヶ条のご誓文(せいもん)

- 一、これからの政治は、会議を開いてみんなの意見を聞いて決めよう
- 一、国民は心をつ一つにして国をさかんにしよう
- 一、すべての国民の意見がかなう世の中にならう
- 一、これまでの古いしきたりを改めよう
- 一、外国の知識を取り入れて国を豊盛させよう

これを見た人々はどう思ったのだろうか？

江戸時代と比べてみよう

江戸時代の様子

政治は、将軍(しょうぐん)を中心に行っていた

民衆(みんしゅう)が政治のやり方について意見を出すと、しよばつされることもあった

閉国をしていた、外国の知識は、あまり入ってこなかった

明治政府が示した政治の方針を前の時代の様子と比較させる資料

四民平等(しみんびょうどう)

われわれ明治政府は、これまでのきびしい身分制度をやめ、四民(武士、農民、工人、商人)平等の世の中にする

このことを知った、人々は どう思っただろうか？

武士は？ 農民・町人は？

できるようにしたこと

武士は？

グラフを見る

職業(しよくぎょう)を自由に選べること

それまでは、武士が百姓になったり、百姓が町人となって商売をしたりすることはできなかった

身分(みぶん)に関係なく結婚(けつこん)できること

それまでは、身分のちがうもの同士の間では、たとえば、武士と百姓といった結婚は許されなかった

すべての人が名字(みょうじ)を名乗ること

それまでは、武士階級の特別な権利であった。いきなり、名字を名乗るようになると言われても、どのような名字をつけてわからず困った人も多かった

明治政府が示した改革によって人々が具体的にできるようになったことをとらえる資料(下のフレームで切り替えて表示している)

これらの人たちの出身地を見よう

大久保利通 木戸孝光 西郷隆盛 伊藤博文

政治や社会の改革を進めた人たちはどのような人たちのだろうか？

ヒントを見る

出身地

長門(ちやうもん)藩 木戸孝光、伊藤博文

肥前(ひぜん)藩 大久保利通

土佐(とさ)藩 西郷隆盛、大久保利通

政治の改革が討幕運動を行った人々の手によって行われたことをとらえさせる資料

四民平等(しみんびょうどう)

われわれ明治政府は、これまでのきびしい身分制度をやめ、四民(武士、農民、工人、商人)平等の世の中にする

このことを知った、人々は どう思っただろうか？

武士は？ 農民・町人は？

できるようにしたこと

武士は？

グラフを見る

江戸時代の身分制度

士農工商(しのこうしやう)と呼ばれる身分制度で、武士、農民、工人、町人の順できびしく身分が分けられていた。また、身分は生まれながら決まっていた。武士には、さまざまな権利があった。

明治政府が行った改革を前の時代の様子と比較する資料

解放令(かいほうれい)

「長い間差別に苦しんできた人々(えた・ひにん)に対しては、その呼び名をやめ、身分や職業も平民と同じにあつかわなければならぬ」

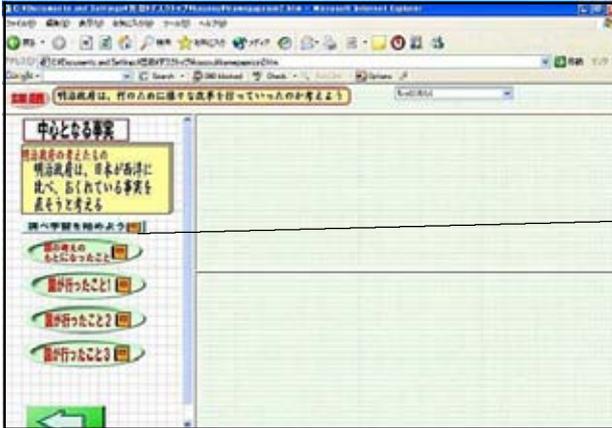
差別されてきた人はこれをみて、どんな思いになっただろうか？

差別されてきた人の身分と職業

江戸時代は一番低い身分とされ、住むところも職業もきびしく制限(せいげん)されていた。また職業は死んだ牛や馬などの皮をはいで皮製品を作るものが一番多かった

明治政府が示した改革とが差別階級の人々との思いとの関連を見いだす資料

第4時「新しい政府のめざしたもの」



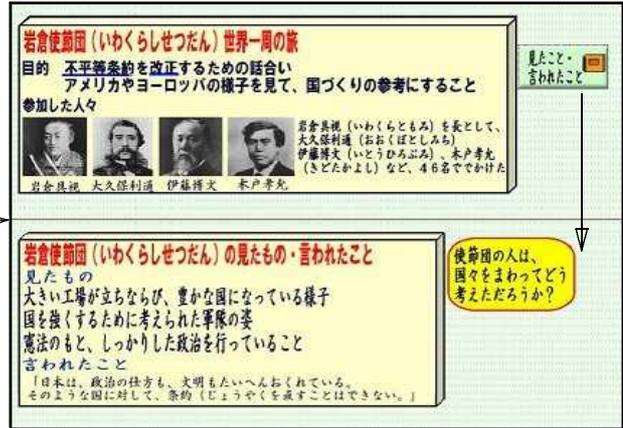
第4時の基本フレーム
確認するための内容が一つと調べる内容が3点ある



殖産興業について、前の時代の工業の様子と比較させ関連を示した資料



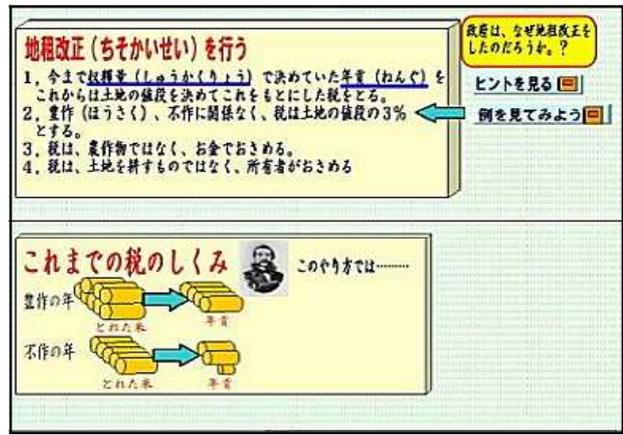
徴兵令を敷き、国力を高めようとするを前の時代との比較をさせ関連を示した資料



岩倉使節団が欧米諸国を巡り、政治の仕組みや文化などを取り入れようとしたことをとらえさせる資料

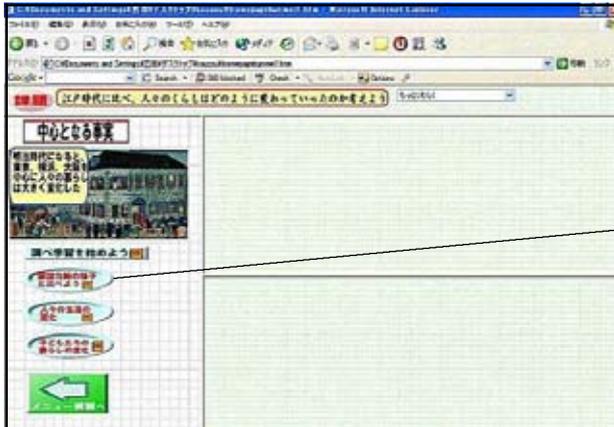


各地にできた官営工場を示す資料
軍事産業もおきたこともとらえさせる



国の収入を安定したものにするために地租改正を行ったことについて前の時代との関連を示した資料

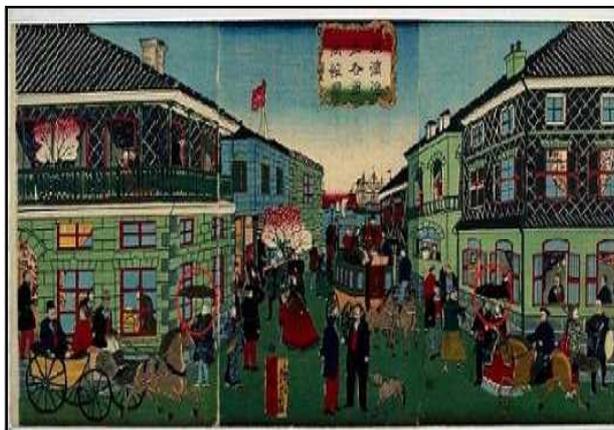
第5時「まちの暮らしの変化」



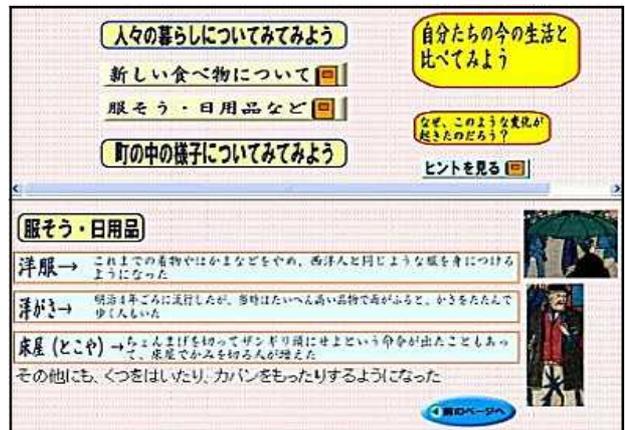
第5時の基本フレーム
この時間で調べる内容は3点である



開国して数年後の様子と開国して間もないころの様子から時代の変化をとらえさせる資料



資料から時代の変化の様子を確実にとらえさせるためのポイントを表示したものである



人々の暮らしの変化をとらえさせる資料



町の中の変化の様子を示した資料
言葉の説明の後に図で示している



学制発布と福沢諭吉の考えとの関連を見いださせる資料

第6, 7時「政治への願いと国会」

政府が国会を開くことになった原因と政治に与えた影響を考えよう

中心となる事実

国会を開く前夜
明治憲法は、1890年に公布され、日本の歴史を変えていく重要な役割を果たした。

調べ学習を始めよう

- きっかけ1回
- きっかけ2回
- きっかけ3回
- 疑問の解消
- 国会を開く準備1回
- 国会を開く準備2回

第6, 7時の基本フレーム
この時間は2時間扱いで調べる内容は7点である

政府を批判(ひはん)して起きた事件

高田事件 群馬事件
飯田事件
福島事件 加波山事件
大阪事件 名古屋事件 静岡事件 秩父事件

どの様な人々が関わっていたのだろうか?
例を見る

国会を開いてほしいという運動の参加人数

政府は、なぜ国会を開くことを約束することになったのだろうか?

1~1000人
1001~5000人
5001~10000人
10001人以上

自由民権運動が全国に広まっていった様子を示した資料

第1回総選挙行われる

1890年に第1回の選挙が行われ、300人が選ばれる

選挙は、今の選挙とはちがいで、投票用紙に自分の名前を書き、役人や警官の前で投票をするものだった

選挙に参加できた人たち

	投票できる人	選ばれる人
年齢	25才以上	30才以上
性別	男性のみ	男性のみ
おさめている税金の額	15円以上	15円以上

投票できた人は100人に1人だけだった

選挙に参加できた人たち
投票できる人はなぜ少なかったのだろうか?
今の選挙は? ヒントを見る

第1回総選挙の様子を投票権に焦点を当てて示した資料

土族(しぞく)の反乱(はんらん)

西南(せいなん)戦争
政府の改革(かいかく)に不満をもつ土族が西郷隆盛を中心に、明治政府と戦ったが薩長軍(さつちやうじい)によって集められた政府の軍隊に負けた

西郷隆盛
國を拡大する

各地で起きた土族(しぞく)の反乱(はんらん)

秋の乱
秋月の乱
佐賀の乱
神風逃の乱
西南戦争

どの反乱もすべて政府の軍隊にしずめられる
どうして土族は反乱を起こしたのだろうか?
ヒントを見る

土族の反乱の様子と、反乱がおきた場所の地図

大日本帝国憲法

第1条 大日本帝国は、朕(だいだい)天皇(てんのう)が治める(おさめる)

第2条 天皇は神の如く(どうと)いものである

第4条 天皇は國の元首であり、國の政治を行う權限(けんげん)をもつ

第5条 天皇は議會の意見を聞きながら法律(ほうりつ)を定める權利をもつ

第11条 天皇は陸海軍(りくかいぐん)を統率(とうそつ)する

第29条 國民は法律に定められたはんい内で、言論(げんろん)、出版、集会、団体をつくる自由をもつ

伊藤博文の考えた憲法と自由民権運動を行ってきた人が考えた五日市憲法をくらべながら考えよう
ヒントを見る

五日市憲法

- 日本國民は、士族・平民などの区別なく法律のまでは、平等な權利を持つ
- 日本國民は、檢閲(けんえつ)を受けることなく、自由に思想・意見・論議(ろんぎ)など演説(えんせつ)したり出版したりすることができる
- 國會は、みんなから選挙で選ばれた人で会議をおこなう

大日本帝国憲法を五日市憲法と比較して特徴をとらえさせる資料

国会が開かれる

第1回の総選挙で選ばれた人、天皇によって選ばれた人たちによって、1890年11月、第1回の帝國(ていこく)議會<國會>が開かれた

帝國議會には、どんな人たちが集まったのだろうか?
帝國議會の様子

帝國議會の様子 議會は貴族院と衆議院にわかれていた

貴族院(きぞくいん) 250名	衆議院(しゅうぎいん) 300名
天皇によって選ばれた人	選挙で選ばれた人
貴族(きぞく) 華族(かざく) 税金をたくさんおさめた人	自由党 130名 政府に反対 立憲改進党 41名 政府の意見に賛成する党 84名 自由党

政治の仕方は、今までと、どう変わったのだろうか?
ヒントを見る

国会が開設され、どのように政治の仕方が変わっていったのか類推させる資料

< 使用した画像の著作権申請先 >

国立国会図書館 (<http://www.ndl.go.jp/>)

- 「板垣退助」(<http://www.ndl.go.jp/portrait/datas/10.html>)
- 「伊藤博文」(<http://www.ndl.go.jp/portrait/datas/12.html>)
- 「岩倉具視」(<http://www.ndl.go.jp/portrait/datas/23.html>)
- 「大久保利通」(<http://www.ndl.go.jp/portrait/datas/32.html>)
- 「大隈重信」(<http://www.ndl.go.jp/portrait/datas/33.html>)
- 「木戸孝允」(<http://www.ndl.go.jp/portrait/datas/65.html>)
- 「小村寿太郎」(<http://www.ndl.go.jp/portrait/datas/83.html>)
- 「西郷隆盛」(<http://www.ndl.go.jp/portrait/datas/85.html>)
- 「坂本竜馬」(<http://www.ndl.go.jp/portrait/datas/89.html>)
- 「陸奥宗光」(<http://www.ndl.go.jp/portrait/datas/199.html>)
- 「徳川慶喜」(<http://www.ndl.go.jp/portrait/datas/147.html>)
- 「福沢諭吉」(<http://www.ndl.go.jp/portrait/datas/185.html>)

上州富岡製糸場之図 寄別7-4-2-5 画像フィルム No. 4344 画像フィルム No. 4345

http://rarebook.ndl.go.jp/pre/servlet/pre_ni_pic.jsp;jsessionid=3F6C06D3DD102EA9CFF537F25A41E596

西南戦争 寄別 8-5-1-1 画像フィルム No. 4637

http://rarebook.ndl.go.jp/pre/servlet/pre_ni_pic.jsp;jsessionid=3F6C06D3DD102EA9CFF537F25A41E596

鉄道馬車 請求記号：寄別 7-1-2-3 画像フィルム No. 2682 画像フィルム No. 2683

http://rarebook.ndl.go.jp/pre/servlet/pre_ni_fit.jsp;jsessionid=3F6C06D3DD102EA9CFF537F25A41E596

横浜開港図 寄別 7-3-2-4 画像フィルム No. 2796 画像フィルム No. 2797

http://rarebook.ndl.go.jp/pre/servlet/pre_ni_pic.jsp;jsessionid=3F6C06D3DD102EA9CFF537F25A41E596

横浜高嶋町揚屋三階造海岸遠景之図 寄別 7-1-2-6 画像フィルム No. 2696

http://rarebook.ndl.go.jp/pre/servlet/pre_ni_pic.jsp;jsessionid=3F6C06D3DD102EA9CFF537F25A41E596

横浜本町之図 寄別 7-1-1-6 画像フィルム No. 2668 画像フィルム No. 2669

http://rarebook.ndl.go.jp/pre/servlet/pre_ni_fit.jsp;jsessionid=3F6C06D3DD102EA9CFF537F25A41E596

横浜市立図書館 (<http://www.city.yokohama.jp/me/kyoiku/library/index.html>)

ペルリ渡来当時の老中主席阿部伊勢守政弘肖像

ペルリ艦隊集合図

米国使節ペルリ肖像

米国献上品（当時の読売りもの）

米船渡来 旧諸藩士警固之図

神名川横浜新開港図

東京横浜蒸気車鉄道之図

横浜異人商館売場之図

幕末写真館ホームページ (<http://www.dokidoki.ne.jp/home2/quwatoro/bakumatu.shtml>)

「徳川慶喜」肖像画

「岩倉具視」肖像画

明治村画像庫 <http://meijimura.nce.buttopi.net/>

明治期の学校の写真

明治期の電話の写真

探検コム <http://www.tanken.com/>

徴兵された人々の写真